



LIBRARY OF TOKIOFU

16

原田由己編輯

上帙

歷代史略要

明治十年

萬蘊堂

四月出版

魁文堂

發兌

明治十年圖書局發行

例言

一

是書通鑑肇要二原キ、二十二史及ヒ綱鑑諸篇宋元通鑑等ヲ參酌シ、上太古ヨリ下明季ニ至リ、歷代事迹ノ大要ヲ節録シ、以テ初學ノ披閱ニ便ニス。

篇中所載ノ事迹、悉ク原書ノ舊ニ依ルト雖モ、間々亦増損スル者アリ、且字句ノ間率チ簡省ニ從ヒ、務テ文義ヲシテ平易ナラシム、要通曉シ易キニ取ルノミ、

一 凡ソ文字ノ讀ミ難ク、事理ノ解シ難キ者ハ、悉ク摺撫シテ音釋ヲ施シ、別ニ之ヲ各卷ノ末ニ附ス、

一 東周君淮陽王ノ類、帝王世次ノ間ニ列スト雖モ、世數

ニ加ヘス、故ニ之ヲ圈中ニ圍ミ以テ諸帝ニ別ツ、
一 皇后太子ヲ立ルノ類一槩略ニ從テ其關係アル者ハ
則之ヲ書ス、

一 三國ノ際漢ヲ以テ提頭ト為シ、魏吳ノ二僭國ヲ其間
ニ附スル者、朱子綱目ノ義例ナリ、今亦此ニ依ル、

一 凡ソ歳年、正統ハ直チニ某年或ハ年號某年ト書シ、無

統南北朝五ハ則チ干支某年或ハ干支某年ト書ス、正統ト

雖氏未タ天下ヲ并サ、ル已前ハ、無統ノ例ヲ用ウ、秦

ノ始皇初テ天下ヲ并スニ至テ、初チ二十六年ト書ス

ノ類ノ如シ、

一 凡ソ帝王ノ死崩スト書ス者ハミナ正統ナリ、無統ノ

君ハ歿スト書シ、僭國ノ君及ヒ尊ヲ失フ者ハ卒スト

書ス、亦綱目ノ義例ニ遵フナリ、

一 七雄ノ割據三國ノ鼎峙、及ヒ某ノ世某ノ地ニ都シ、某

氏某ノ土ニ起ルノ類、讀ム者其方位ヲ知ラサルヘカ

ラス、今歷代沿革ノ略圖ヲ附載シ、以テ其概略ヲ示ス、

一 七雄ノ事迹、周紀中ニ載スルト雖、氏遺ス所固ヨリ多

シ、因テ別ニ略表ヲ附シ、以テ各國興滅ノ先後ヲ知ラ

シム、五胡十六國及ヒ五季ノ諸僭國ノ如キモ亦然カ

ス

一是書一二舊文ニ依テ編次スト雖正増損際枯シテ文ヲ成スヲ以テ或ハ詳略宜キヲ失ヒ疎謬ヲ致ス者極メテ多カラシク觀ル者之ヲ正サハ幸甚

明治十年一月

原田由己識

歴史學要目次

卷之一

起太古盡周考王

卷之二

起周威烈王廿三年盡漢高后八年

卷之三

起漢文帝元年盡漢淮陽王二年

卷之四

起後漢光武帝建武元年盡靈帝中平六年

卷之五

起漢獻帝初平元年盡晉武帝太康十一年
卷之六

起晉惠帝永熙元年盡東晉恭帝元熙二年
卷之七

起宋武帝永初二年盡隋恭帝義寧元年
卷之八

起唐高祖武德元年盡唐睿宗太極元年
卷之九

起唐玄宗開元二年盡唐代宗太歷十四年
卷之十

起唐德宗建中元年盡唐懿宗咸通十四年
卷之十一

起唐僖宗乾符元年盡周恭帝元年
卷之十二

起宋太祖建隆元年盡宋仁宗嘉祐八年
卷之十三

起宋英宗治平二年盡宋欽宗靖康二年
卷之十四

起南宋高宗建炎二年盡宋孝宗淳熙十六年
卷之十五

起宋光宗紹熙元年盡宋帝昺祥興二年

卷之十六

起元世祖至元十七年盡元順帝至正廿八年

卷之十七

起明太祖洪武元年盡明英宗正統十四年

卷之十八

起明景帝景泰元年盡明穆宗隆慶六年

卷之十九

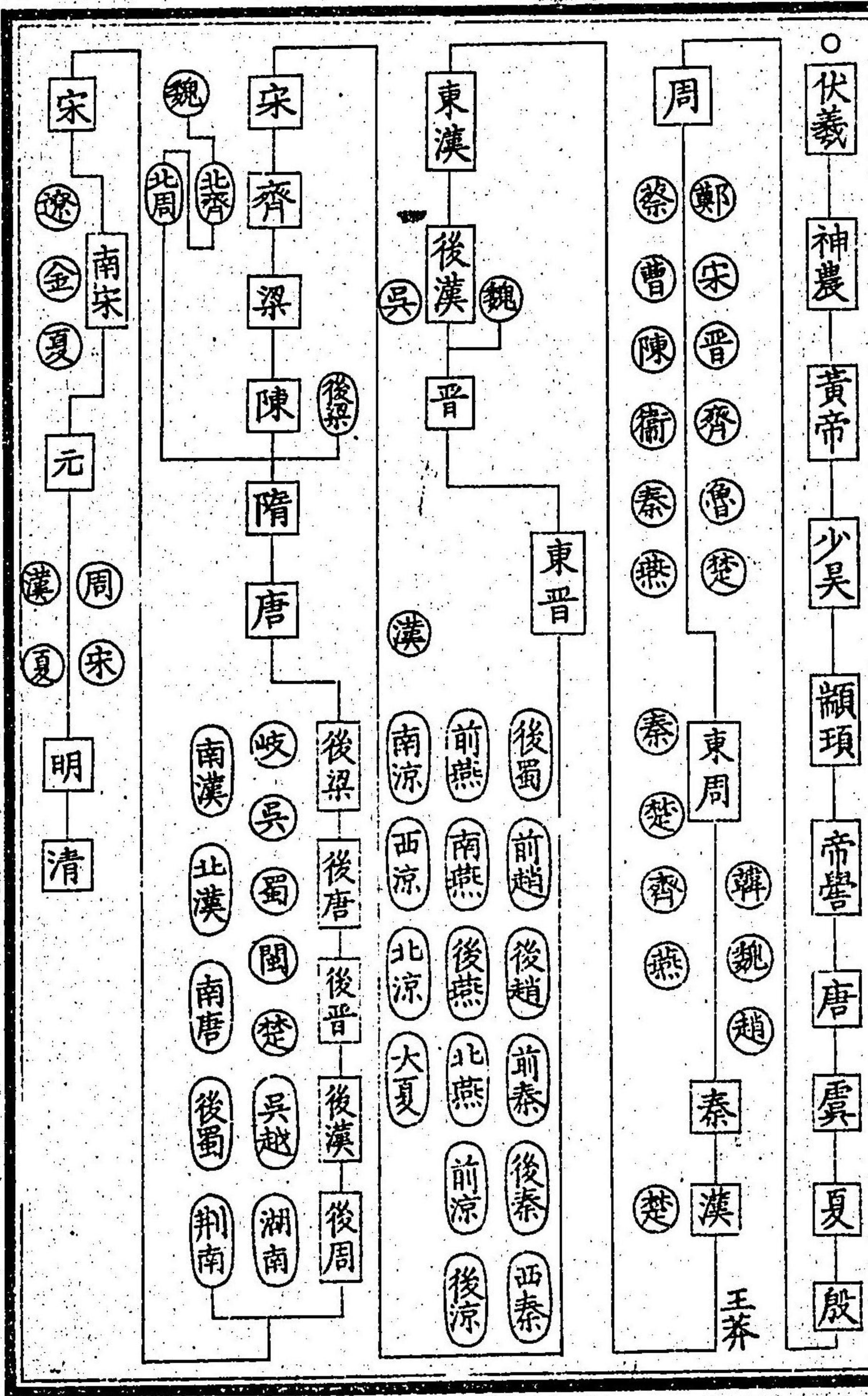
起明神宗萬曆元年盡明毅宗崇禎十七年

卷之二十

起明帝由松畫鄭氏永曆三十七年

目次終

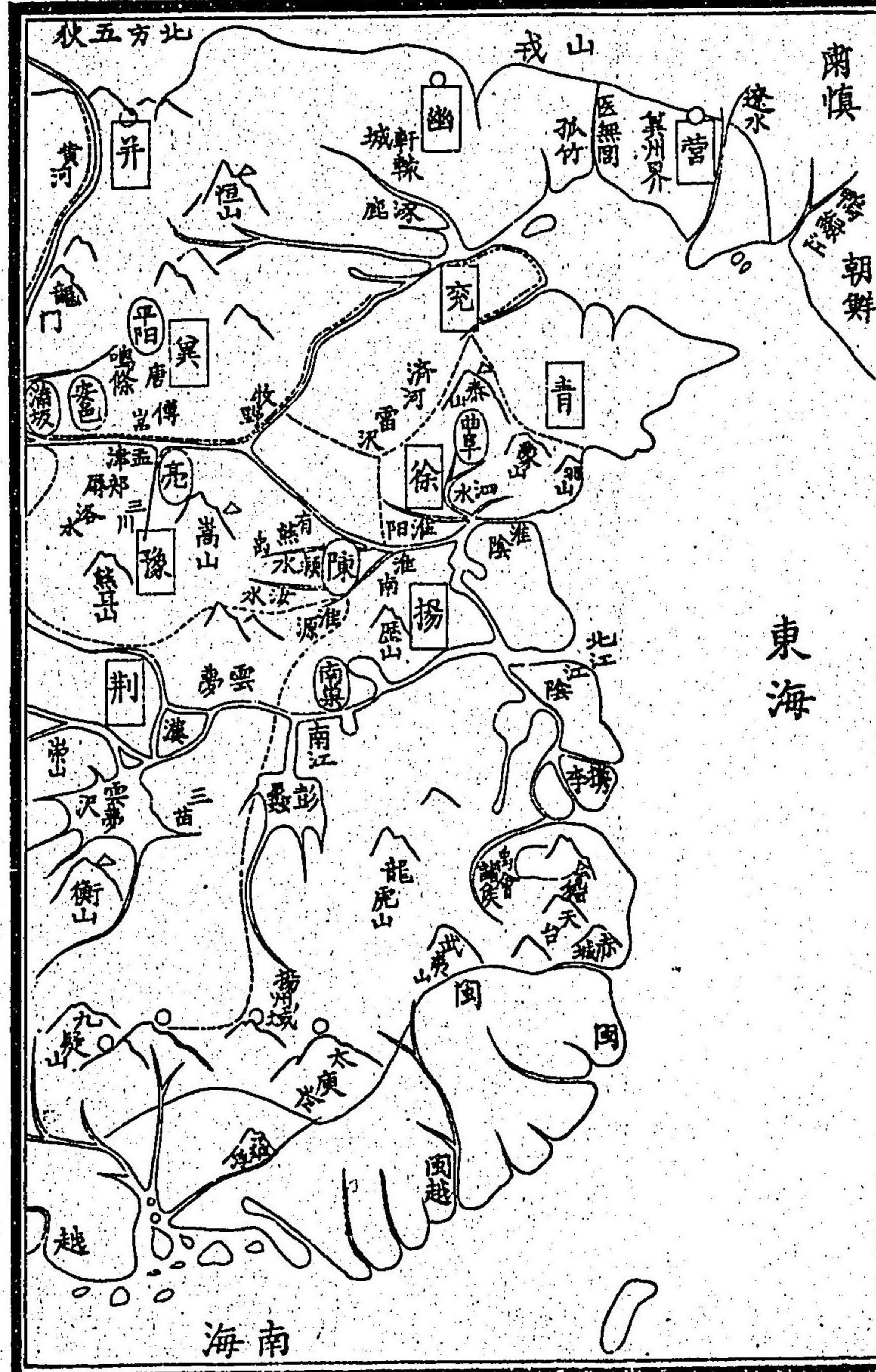
歷代傳統之圖



九州沿革略說

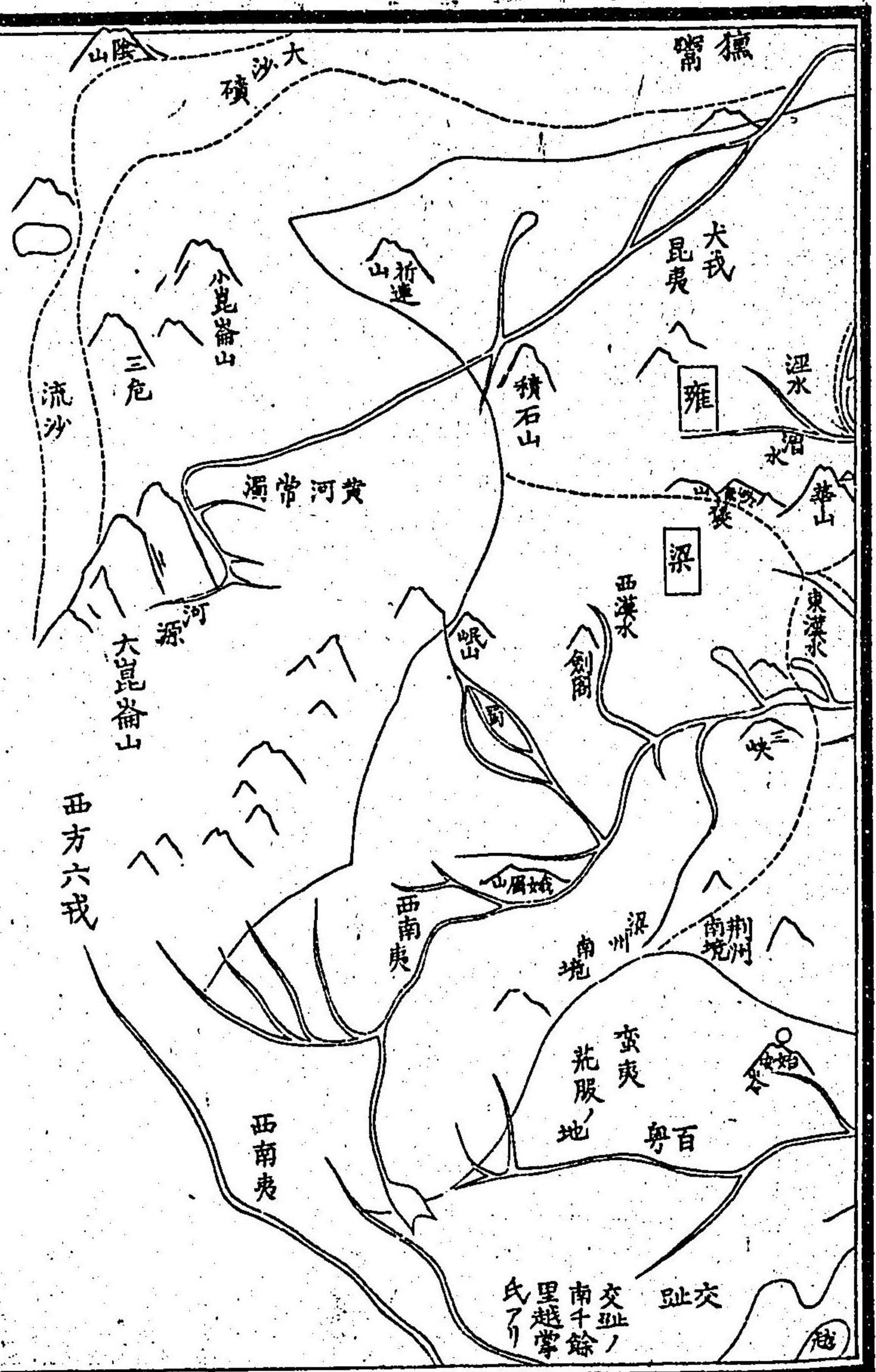
古者中國ノ地但分チテ九州ト為ス、冀、兗、青、徐、荆、揚、豫、梁、雍ト曰フ、禹ノ水土ヲ平ラケ貢賦ヲ定ルモ、亦其舊ニ依ルノミ、舜ノ位ニ即クニ及ヒ、冀、青二州ノ地廣キヲ以テ、始テ冀、西恒山ノ地ヲ分テ并州ト為シ、其東北醫無閭ノ地ヲ幽州ト為シ、又青ノ東北遼東等ノ處ヲ分テ營州ト為ス、禹命ヲ受テ復タ九州ト為シ、殷之ニ因テ改メス、周ノ成王ノ時ニ至リ、禹ノ九州ヲ改メ、徐、梁ヲ以テ青、雍ニ合セ、冀州ノ域ヲ分テ幽、并二州ト為ス、漢ノ昭帝、周ノ雍州ヲ改メテ涼州ト曰ヒ、復タ夏ノ徐、梁二州ヲ置キ、梁ヲ

九州略圖



東海

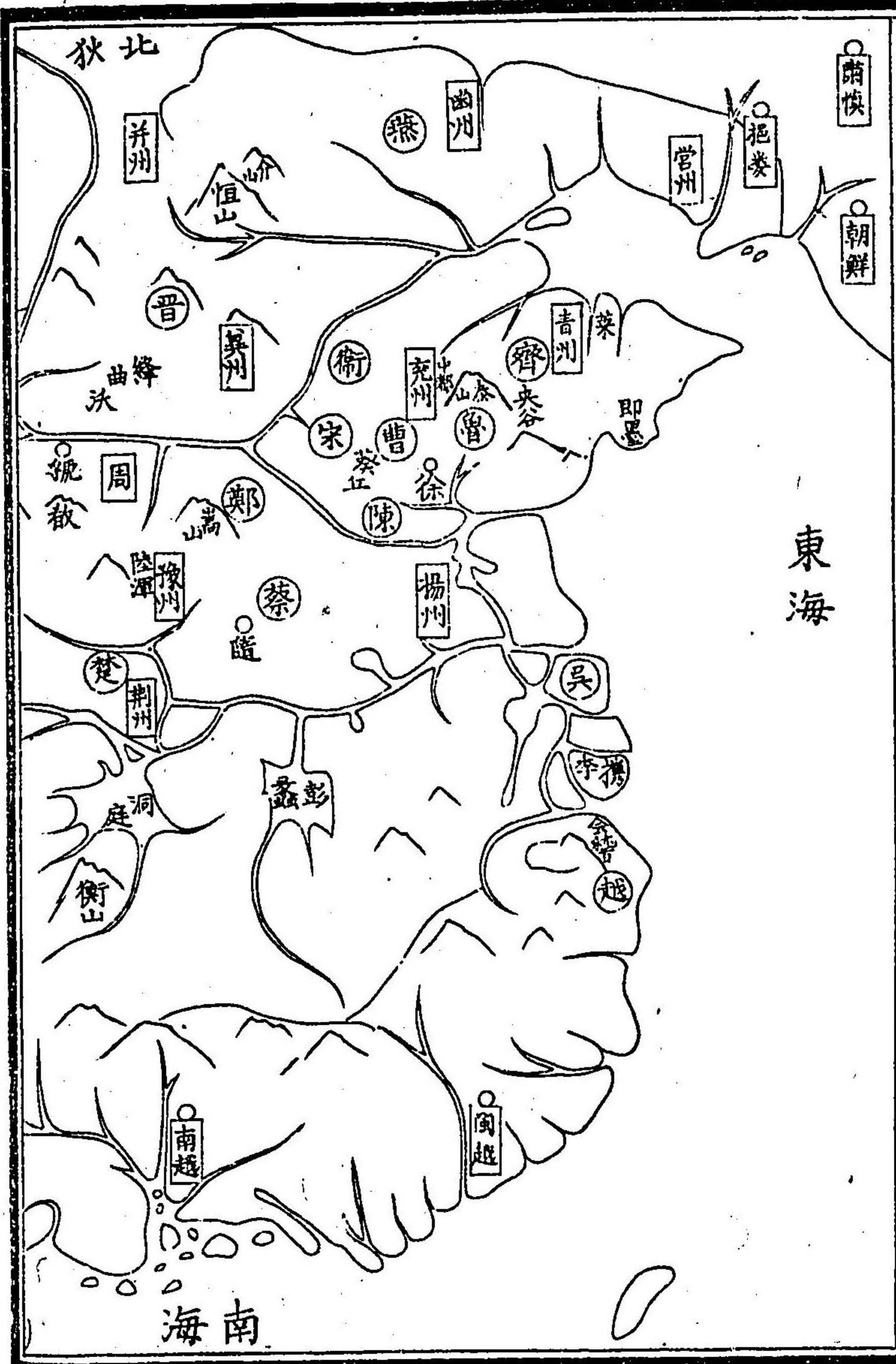
海南



- 九州
- 州分
- 帝王
- 古都
- △ 五岳
- 五嶺

卷一
治革圖
二

春秋十二諸侯略圖

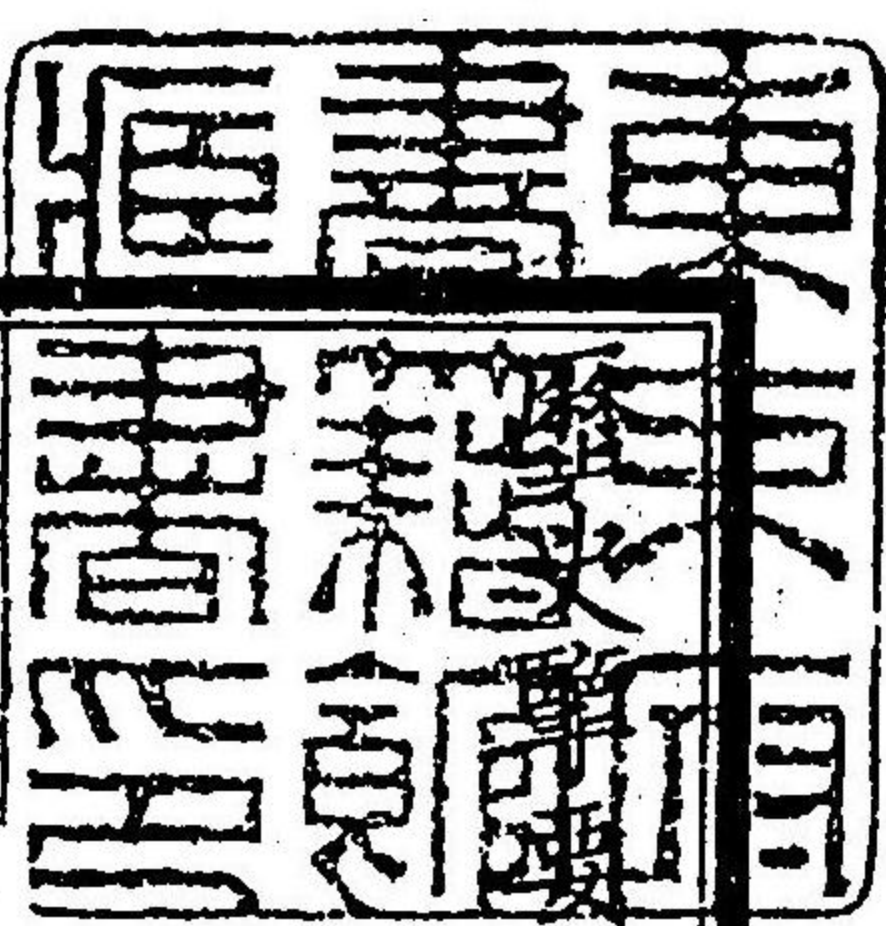


○ 州十一
 ○ 夷
 ○ 侯國
 ○ 小國

○ 沿革圖

三

改メテ益ト曰フ、後漢ノ献帝ノ時、禹貢ノ九州ニ復ス、



卷之一

原田由巳 編次

太古

○天皇氏 天地初テ立テ天皇氏アリ、澹泊無為ニシテ俗自ラ化ス、兄弟十三人アリ、各々一萬八千歳、

○地皇氏 天皇ニ繼テ世ヲ御ス、兄弟十一人、熊耳龍門等ノ山ヨリ興レリ、亦各々一萬八千歳、

○人皇氏 地皇ニ繼テ世ヲ御ス、兄弟九人、山川ノ勢ニ因リ分チテ九州ト為シ、各々其一ニ居テ之カ長ト為

リ、人皇中州ニ居テ八輔ヲ制ス、政教君臣ノ自テ起ル所、
飲食男女ノ自テ始ル所ナリ、凡テ一百五十世、合テ四萬
五千六百年、○人皇以後有巢氏ト曰フ者アリ、木ヲ構ヘ
テ巢ヲ為リ、民ニ巢居ヲ教フ、此時ヤ民草木ノ實ヲ食ヒ、
禽獸ノ血ヲ飲ム、燧人氏出ルニ及テ始テ木ヲ鑽テ火ヲ
取リ、民ニ熟食ヲ教フ、
三皇紀

○太昊伏羲氏 風姓、燧人氏ニ代テ天下ニ王タリ、蛇
身人首聖德アリ、始テ八卦ヲ畫シ、以テ神明ノ德ヲ通シ、
萬物ノ情ヲ類シ、書契ヲ作り以テ結繩ノ政ニ代フ、是ニ

於テ嫁娶ヲ制シ、儼皮ヲ以テ禮ト為シ、網罟ヲ結テ民ニ
佃漁ヲ教フ、龍ノ瑞アリ龍ヲ以テ官ニ紀シ、號シテ龍師
ト曰フ、陳ニ都ス、在位一百五十年、○伏羲崩シテ女媧氏
立ツ、亦風姓、革造ナシ惟笙簧ヲ作ル、其末年ニ當リ諸侯
ニ共工氏アリ、祝融ト戰テ勝タス、怒テ不周ノ山ニ觸レ、
天柱抅ケ地維缺ク、女媧乃チ五色ノ石ヲ鍊リ以テ天ヲ
補ヒ、鰲ノ足ヲ斲チ以テ四極ヲ立ツ、是ニ於テ地平ヲキ
天成テ舊物ヲ改ノス、女媧氏没シテ神農氏興ル、或ハ曰
後共工氏太庭氏相皇氏中央氏歷陸氏驪連氏赫胥氏尊
盧氏混沌氏昊英氏朱襄氏葛天氏陰康氏無懷氏アリ、風
姓相承ル者十五世ト按スルニ三皇本紀太庭以下ヲ叙
テ、人皇以後伏羲ノ前ニ在リ、而シテ名号又小異アリ、

未タ孰レカ是ナルヲ知
ラス、故ニ姑ク之ヲ開ク、

○炎帝神農氏 姜姓、人身牛首風姓ニ繼テ立ツ、木ヲ
剷リテ耜ト為シ、木ヲ揉メテ耒ト為シ、始テ農耕ヲ教フ、
百草ヲ嘗メテ始テ醫藥アリ、人ニ教ヘテ日中ニ市ヲ為
シ、交易シテ退カシム、各ク其所ヲ行タリ、初メ陳ニ都シ
曲阜ニ遷ル、在位一百二十年、神農氏ノ後凡テ八世、五百
三十年ニシテ軒轅氏興ル、

○黃帝軒轅氏 公孫姓又曰姬姓名ハ軒轅、有熊國ノ
君少典ノ子ナリ、時ニ神農氏世衰ヘ諸侯相侵伐シテ、百
姓ヲ暴虐ス、神農氏征スル能ハス、軒轅乃チ干戈ヲ用ル

一ヲ習ヒ、以テ不享ヲ征ス、諸侯ミナ之ニ歸ス、遂ニ神農
氏ト阪泉ノ野ニ戰テ之ニ克ツ、諸侯ニ蚩尤ナル者アリ、
亂ヲ作シテ軒轅ノ命ヲ用井ス、軒轅乃チ師ヲ諸侯ニ徵
シテ蚩尤ト涿鹿ノ野ニ戰フ、蚩尤大霧ヲ作シ軍士昏迷
ス、軒轅指南車ヲ作り以テ四方ヲ示シ、蚩尤ヲ擒ニシテ
之ヲ殺ス、遂ニ神農氏ニ代テ天子ト為ル、雲ヲ以テ官ニ
紀シ、号シテ雲師ト曰フ、左右大監ヲ置テ萬國ヲ監シ、風
后ヲ舉テ相ト為シ、力牧ヲ將ト為シ、史官ヲ立テ、文字
ヲ制シ、占天ノ官ヲ立テ、甲子ヲ作り、又算數ヲ作り律
呂ヲ造ル、在位一百年、二十五子アリ、其姓ヲ得ル者十四

人

五帝紀

○少昊金天氏 已姓名ハ摯、黃帝ノ子ナリ、其立ツヤ
 鳳鳥適ニ至ル、因テ鳥ヲ以テ官ニ紀ス、在位八十四年、
 ○顓頊高陽氏 姬姓、昌意ノ子、黃帝ノ孫ナリ、時ニ九
 黎神怪ヲ以テ天下ヲ惑シ、家々巫史ヲ為シテ民祭祀ニ
 瀆ル、乃チ南正重ニ命シテ天ヲ司リ、以テ神ヲ屬シ、北正
 黎ヲシテ地ヲ司リ、以テ民ヲ屬セシム、是ニ於テ神民雜
 ハラス、萬物序アリ、又曆ヲ改メ建寅ノ月ヲ以テ曆元ト
 為ス、在位七十八年、

○帝嚳高辛氏 姬姓名ハ姒、少昊ノ孫ナリ、生レテ神
 靈自ラ其名ヲ言フ、亳ニ都ス、在位七十年、子摯嗣テ立チ
 荒淫暴虐ナリ、是ニ於テ諸侯之ヲ廢シテ其弟堯ヲ立ツ、
 ○帝堯陶唐氏 伊祁氏帝嚳ノ子ナリ、其仁天ノ如ク
 其智神ノ如ク、之ニ就ケハ日ノ如ク、之ヲ望メハ雲ノ如
 シ、平陽ニ都ス、○羲氏和氏ニ命シ、日月星辰ニ數ヘ法ト
 リ、敬ミテ民ニ時ヲ授ク、○此時ニ當リ洪水橫流シテ下
 民憂ヒニ堪ヘス、鯀ニ命シテ之ヲ治メシム、九載ニシテ
 績用成ラス、○堯立テ七十年老テ勤メニ倦ミ、賢者ヲ求
 メテ位ヲ遜ラント欲ス、群臣舜ヲ薦ム、乃チ命スルニ職

位ヲ以テス、○舜終リテ文祖ニ受ケ天子ノ政ヲ攝行ス、
○舜八愷八元ヲ舉ク、八愷ハ高陽氏ノ子、八元ハ高辛氏
ノ子ナリ、此十六族世々美德アリ、故ニ之ヲ舉ク、○舜驩
兜ヲ崇山ニ放チ、共工ヲ幽洲ニ流シ、鯀ヲ羽山ニ殛シ、三
苗ヲ三危ニ竄ス、四罪シテ天下咸ク服ス、○舜大麓ニ納
ル、麓ハ録ナリ、萬機ノ政ヲ大録スルヲ云、乃チ禹ヲ舉テ司空ト為シ、棄ヲ后
稷ト為シ、民ニ稼穡ヲ教ヘ、契ヲ司徒ト為シ、五教ヲ敷カ
シム、○禹水ヲ治ノテ功ヲ成ス、因テ九州ノ貢賦ヲ定メ、
十有二州ヲ肇ム、○舜位ヲ攝スル一二十八年ニシテ堯
崩ス、在位九十八年、

○帝舜有虞氏 姚姓瞽瞍ノ子黃帝八代ノ孫ナリ、父
後妻ニ惑ヒ少子象ヲ愛シテ、之ト與ニ舜ヲ殺サント欲
ス、舜孝悌ノ道ヲ盡シテ萬謹懃ラス、歷山ニ耕セハ耕者
ミナ畔ヲ讓リ、雷澤ニ漁スレハ漁者ミナ居ヲ讓リ、河濱
ニ陶スレハ河濱ノ器苦窳セス、居ル所一年ニ聚ヲ成シ、
二年ニ邑ヲ成シ、三年ニ都ヲ成ス、堯其聰明ヲ聞テ畎畝
ヨリ舉ケ、妻ハスニ二女ヲ以テス、遂ニ堯ニ相トシテ政
ヲ攝ス、堯ノ子丹朱不肖ナリ、舜乃チ禪ヲ受ケ、蒲阪ニ都
ス、○舜其過ヲ聞シテ欲シテ誹謗ノ木ヲ立ツ、五絃ノ
琴ヲ彈シ、南風ノ詩ヲ歌テ而シテ天下治ル、其詩ニ曰、南

風之薰兮可以解吾民之愠兮南風之時兮可以阜吾民之財兮○考功ノ法ヲ定メ三載一タヒ績ヲ考ヘ九載三考シ其明ヲ陟セテ其幽ヲ黜ク是ニ於テ衆功咸ク興ル○舜ノ子商均不肖ナリ乃チ禹ニ命シテ政ヲ攝シ師ヲ總ヘシム禹命ヲ神宗ニ受ク○舜年三十二ニシテ登用セラレ攝ニ居ルト三十年帝位ニ即テ五十年ニシテ崩ス

夏紀

○夏后氏禹 姒姓鯀ノ子顓頊ノ孫ナリ鯀水ヲ治メテ功ナシ舜乃チ鯀ヲ殛シ禹ヲ舉テ之ニ代ラシム禹身ヲ勞シ思ヲ焦シテ外ニ居ルト十三年家門ヲ過レ臣入

ラス陸行ニハ車ニ乘リ水行ニハ船ニ乘リ泥行ニハ橇ニ乘リ山行ニハ楸ニ乘リ九州ヲ開キ九道ヲ通シ九澤ニ陂シ九山ヲ度リ其功最モ大ナリ舜之ヲ嘉シテ天子ノ事ヲ行ハシム舜崩スルニ及テ乃チ帝位ヲ踐ミ安邑ニ都ス○元歲載ヲ改テ諸侯ヲ塗山ニ會ス玉帛ヲ執ル者萬國○五歲巡狩ス王出テ罪人ヲ見レハ車ヨリ下リ泣テ曰堯舜ノ人ハミナ堯舜ノ心ヲ以テ心ト為ス寡人君ト為リテ百姓各自ニ其心ヲ以テ心ト為ス是ヲ以テ之ヲ痛ムト○巡狩シテ江ヲ濟ル時黃龍アリ舟ヲ負フ舟中ノ人惧ル禹笑テ曰吾レ命ヲ天ニ受ケカヲ竭シ

テ萬民ヲ養フ、生ハ寄ナリ死ハ歸ナリ、何ソ龍ヲ憂ヘシヤト、龍首ヲ俯シ尾ヲ依レテ逝ク、○禹在位二十七年、東巡シテ會稽山ニ至テ崩ス

○啓 禹ノ子ナリ啓賢ニシテ能ク禹ノ道ヲ繼ク、時ニ有扈氏五行ヲ威侮シ三正ヲ怠棄ス、啓與ニ甘ノ野ニ戰フ、遂ニ有扈氏ヲ滅シ天下咸ク朝ス、在位九年、

○太康 啓ノ子ナリ、盤游度ナク有洛ノ表ニ畋メ十旬マテ返ラス、有窮ノ后羿之ヲ河ニ拒キ、遂ニ之ヲ廢シテ仲康ヲ立ツ、太康在位二十九年、

○仲康 太康ノ弟ナリ、○二歲、羲氏和氏世々天地四

時ノ官ヲ掌リ酒ニ沈湎ス、乃チ胤侯ニ命シテ之ヲ征セシム、○十三歲仲康崩ス、

○相 仲康ノ子ナリ、○八歲寒促羿ヲ殺ス、夏ノ方ニ衰ルヤ、羿鉏ヨリ窮石ニ遷リ有窮氏ト号シ、王ヲ逐テ自立ス、其射ヲ恃ミ民事ヲ修メスシテ原獸ニ淫シ、寒促ヲ用井テ相ト為ス、浞媚ヲ内ニ行ヒ賂ヲ外ニ施シ、遂ニ羿ヲ殺シテ之ニ代リ、羿ノ室ニ因テ澆及ヒ豷ヲ生ム、其讒慝詐偽ヲ恃テ徳ヲ民ニ施サス、○二十八歲寒促王ヲ帝邱ニ殺ス、王ノ后緡ハ有仍國ノ君ノ女ナリ、方ニ娠ノリ、逃レテ有仍ニ歸リ、少康ヲ生ム、

○少康 相ノ子ナリ、○二十二歳少康有仍ヨリ虞ニ
奔リ綸ニ邑ス、田一成アリ衆一旅アリ、能ク其徳ヲ布キ
其謀ヲ運ラシ、以テ夏ノ衆ヲ收ム、○四十歳夏ノ遺臣靡
師ヲ興シ寒促ヲ討テ之ヲ誅シ、王ヲ奉シテ天子ノ位ヲ
踐マシム、王命シテ澆及ヒ豷ヲ誅セシメ、禹ノ舊績ヲ復
シ、夏道復タ興ル、在位四十二年、

○杼 少康ノ子ナリ、在位十七年、

○槐 杼ノ子ナリ、在位二十六年、

○芒 槐ノ子ナリ、在位十八年、

○泄 芒ノ子ナリ、在位十六年、

○不降 泄ノ子ナリ、在位五十九年、

○扃 不降ノ弟ナリ、在位二十一年、

○厘 扃ノ子ナリ、在位二十一年、

○孔甲 不降ノ子ナリ、孔甲鬼神ヲ好シ淫乱ヲ事ト
ス、夏ノ徳衰ヘ諸侯叛ク者アリ、在位三十一年、

○臯 孔甲ノ子ナリ、在位十一年、

○發 臯ノ子ナリ、在位十三年、

○癸 發ノ子ナリ、是ヲ桀ト為ス、孔甲ヨリ以來諸侯
叛ク者多シ、桀徳ヲ務メスシテ百姓ヲ武傷ス、百姓堪ヘ
ス、○二十二歳公劉豳ニ遷ル、周ノ先世后稷ヨリ徳ヲ積

三善ヲ累子、十餘世ニシテ公劉ニ至リ、桀ヲ避テ豳ニ居
リ、復タ后稷ノ業ヲ脩ム、周道ノ興ル實ニ此ニ基セリ、○
三十三歳、王室日ニ衰ヘ諸侯朝セス、桀能ク鉤ヲ伸ヘ鐵
ヲ索ニス、遂ニ其力ヲ負ミテ蒙山ノ有施氏ヲ伐ツ、有施
氏未喜ヲ進ム、桀之ヲ嬖シテ言フ所ニナ聽ク、瓊室瑤臺
ヲ為リ、又肉山脯林ヲ為ル、酒ノ池ハ以テ舟ヲ運ラスヘ
ク、糟ノ堤ハ以テ十里ヲ望ムヘシ、一鼓シテ牛飲スル者
三千人、○三十五歳、商主癸薨シ子履位ヲ嗣テ亳ニ居ル、
○三十七歳、商湯使ヲ遣シ幣ヲ以テ伊尹ヲ聘シテ之ヲ
桀ニ進ム、伊尹夏ニ適キ告ルニ堯舜ノ道ヲ以テス、聽カ、

ス、伊尹曰、君王臣カ言ヲ聽カスンハ亡ン、日ナケン、桀
笑テ曰、吾カ天下ヲ有ツ、天ノ日アルカ如シ、日亡フル
アラハ吾モ亦亡ント、尹遂ニ湯ニ適ク、湯立テ、相ト為
ス、○四十二歳、桀湯ノ大ニ諸侯ノ心ヲ得ルヲ疾ミ、名シ
テ夏臺ニ囚フ、已ニシテ之ヲ釋ス、湯德ヲ脩メテ諸侯之
ニ歸ス、○五十一歳、桀地ヲ鑿チテ夜宮ト為シ、男女雜處
シテ三旬朝セス、大史令終古泣テ諫レ、弗聽カス、遂ニ商
ニ出奔ス、○五十二歳、諫臣閔龍逢ヲ殺ス、桀暴虐愈々甚
シ、龍逢諫テ曰、古ノ人君ハ民ヲ愛シ用ヲ節ス、今君ハ財
ヲ用ル、窮リナキカ如ク、人ヲ殺ス、勝タサルカ如シ、

亡ル一日無ケント立テ去ラス、桀怒テ之ヲ殺ス、○是歲桀遂ニ湯ノ為ニ亡サル、夏凡テ十七世四百三十二年、

商紀

○成湯 子姓天乙ト號ス、其先ヲ契ト曰フ帝嚳ノ子ナリ、禹ヲ佐ケ水ヲ治メテ功アリ、舜命シタ司徒ト為シ、商ニ封シ姓子氏ヲ賜フ、陶唐虞夏ノ際ニ興リ、功業百姓ニ著ル、湯ニ至テ十四世、湯始テ亳ニ居リ先王ノ居ニ從フ、○十八祀 歲ヲ改テ祀ト曰フ 王師ニ誓ヒ夏桀ヲ伐テ之ヲ南巢ニ放チ、夏ニ代テ天子ノ位ヲ踐ミ國號ヲ建テ、商ト曰フ、○二十四祀大ニ旱ス、王桑林ノ野ニ禱リ、六事ヲ以テ

(三)

自ラ責テ曰、政節アラサル歟、民ヲ使フ_一疾カナル歟、宮室崇キ歟、女謁盛シナル歟、苞苴行ハル、歟、譟夫昌シナル歟ト、言未タ畢ラサルニ大ニ雨フル、○三十祀王崩ス、○太甲 湯ノ孫太丁ノ子ナリ、太甲立テ不明暴虐ニシテ湯ノ法ニ遵ハス、伊尹之ヲ桐宮ニ放ツ、太甲桐宮ニ居ル_一三年、過チヲ悔イ自ラ責メテ善ニ遷ル、伊尹乃チ奉シテ亳ニ復歸ス、諸侯之ニ歸ス、在位三十五年、廟ヲ太宗ト號ス、廟號此ニ始ル、

- 沃丁 太甲ノ子ナリ、在位二十九年、
- 太庚 沃丁ノ子ナリ、在位二十五年、

○小甲 太庚ノ子ナリ、在位十九年、

○雍己 小甲ノ弟ナリ、在位十二年、殷道衰へ諸侯朝セサル者アリ、

○太戊 雍己ノ弟ナリ、太戊立テ伊陟ノ伊尹ヲ相トス、

亳ニ祥アリ桑穀共ニ朝ニ生シ、一夕ニシテ大サ拱ナリ、

太戊惧ル、伊陟曰、妖ハ徳ニ勝タス、君其レ徳ヲ脩メヨト、

太戊大ニ先王ノ政ヲ修ム、三日ニシテ祥桑枯死シ、殷道

復タ興ル、三年アリテ遠方ノ重譯シテ来朝スル者七十

六國、在位七十五年、廟ヲ中宗ト號ス、

○仲丁 太戊ノ子ナリ、在位十三年、遷テ囂ニ都ス、

○外壬 仲丁ノ弟ナリ、在位十五年、

○河亶甲 外壬ノ弟ナリ、在位九年、遷テ相ニ都ス、殷

道復タ衰ス、

○祖乙 河亶甲ノ子ナリ、在位十九年、遷テ耿ニ都シ、

殷道復タ興ル、

○祖辛 祖乙ノ子ナリ、在位十六年、

○沃甲 祖辛ノ弟ナリ、在位二十五年、

○祖丁 祖辛ノ子ナリ、在位三十二年、

○南庚 沃甲ノ子ナリ、在位二十五年、

○陽甲 祖丁ノ子ナリ、仲丁以来適ヲ廢シテ諸弟ヲ

立ツ、諸弟或ハ立ツト争フ、是ニ至テ諸侯朝スル者ナシ、在位七年、

○盤庚 陽甲ノ子ナリ、都ヲ成湯ノ故墟ニ遷シ、國号ヲ改テ殷ト曰フ、湯ノ政ヲ行ヒ殷道復タ興ル、諸侯來朝ス、在位二十八年、

○小辛 盤庚ノ弟ナリ、殷復タ衰フ、在位二十一年、

○小乙 小辛ノ弟ナリ、○二十六祀古公亶父豳ヨリ岐ニ遷リ、國号ヲ改テ周ト曰フ、古公岐山ノ下ニ邑シ、我狄ノ俗ヲ變シ城郭宮室ヲ營築ス、○二十八祀小乙崩ス、○武丁 小乙ノ子ナリ、○三祀傳説ヲ得テ相ト為ス、

武丁恭默シテ道ヲ思フ、夢ニ帝賚フニ良弼ヲ以テス、乃チ形ヲ繪キテ旁ク求ム、説傳巖ノ野ニ築キテ惟レ肖テリ、是ニ於テ立テ、相ト為ス、殷國大ニ治ル、○三十二祀鬼方ヲ伐ツ、鬼方固ヲ恃テ諸夏ヲ擾ル、武丁之ヲ伐チ三年ニシテ之ニ克ツ、是ヨリ内外患ナク殷道復タ興ル、○五十九祀武丁崩ス、廟ヲ高宗ト号ス、

○祖庚 武丁ノ子ナリ、在位七年、

○祖甲 祖庚ノ弟ナリ、淫乱ニシテ殷復タ衰フ、在位三十三年、

○廩辛 祖甲ノ子ナリ、在位六年、

○庚丁 祖甲ノ次子ナリ、在位二十三年、

○武乙 庚丁ノ子ナリ、復タ亳ヲ去テ河北ニ遷ル、武

乙無道ナリ、偶人ヲ為リテ之ヲ天神ト謂ヒ、之ト博シ人

ヲシテ為ニ行ハシメ、恭神勝タサレハ乃チ之ヲ僂辱シ、

革囊ヲ為リ血ヲ盛リテ仰テ之ヲ射ル、命ケテ天ヲ射ル

ト曰フ、後チ河渭ノ間ニ獵シテ暴雷ノ為ニ震死ス、在位

四年、

○太丁 武丁ノ子ナリ、在位三十七年、

○帝乙 太丁ノ子ナリ、○元祀、周公季歷ニ命シテ侯

伯ト為ス、初メ古公亶父ノ妃太姜三子ヲ生ム、長ハ泰伯

次ハ虞仲、少ヲ季歷ト曰フ、季歷太任ヲ娶リテ昌ヲ生ム、

聖瑞アリ、古公曰我カ世當ニ興ル者アルヘシ、其レ昌ニ

在ン乎ト、泰伯虞仲古公カ季歷ヲ立テ、以テ昌ニ傳ヘ

ント欲スル丁ヲ知り、藥ヲ採ルニ托シテ荆蠻ニ之キ、以

テ季歷ニ讓ル、是ヲ公季ト為ス、公季行義ニ篤ク諸侯之

ニ順フ、是ニ至リ戎夷ヲ伐テ之ニ克ツ、遂ニ此命アリ、○

七祀、周公季歷薨シ世子昌位ヲ嗣ク、是ヲ西伯ト為ス、西

伯后稷公劉ノ業ニ遵ヒ、古公公季ノ法ニ則トリ、仁ヲ篤

クシ老ヲ敬シ少ヲ慈シ賢者ニ下ル、伯夷叔齊孤竹ニ在

リ、其善ク老ヲ養フヲ聞キ往テ之ニ歸シ、大顛闕夭散宜

生ノ徒亦之ニ帰ス、○三十七祀、帝乙崩ス、
○紂辛 帝乙ノ子ナリ、○八祀、有蘇氏ヲ伐チ、妲己ヲ
獲テ之ヲ嬖シ、其言ニナ聴ク、賦税ヲ厚クシテ、以テ鹿臺
ノ財ヲ實シ、鉅橋ノ粟ヲ盈テ、大ニ樂戲ヲ沙丘ニ聚メ、酒
ヲ以テ池ト為シ、肉ヲ懸テ林ト為シ、男女ヲシテ、倮ニシ
テ、其間ニ相逐ハシメ、長夜ノ飲ヲ為ス、百姓怨望シ、諸侯
叛ク者アリ、乃チ刑辟ヲ重クシ、銅柱ヲ為リ、膏ヲ以テ之
ニ塗リ、炭火ヲ上ニ加ヘ、罪アル者ヲシテ之ニ縁ラシム、
足滑ラカニシテ、跌キテ火中ニ墜ツ、妲己ト之ヲ觀テ、大
ニ樂ム、名ケテ炮烙ノ刑ト曰フ、○十一祀、初メ九侯鄂公

西伯紂ノ三公タリ、九侯女アリテ美ナリ、之ヲ紂ニ奉ス、
女淫ヲ好マス、紂之ヲ殺シテ、九侯ヲ醢ニス、鄂公之ヲ爭
フ、并セテ鄂公ヲ脯ニス、西伯之ヲ聞テ、竊カニ歎ス、崇侯
虎西伯ヲ譖シテ、叛スト曰フ、因テ西伯ヲ羑里ニ囚フ、西
伯歎シテ曰、君不明ナリト、雖臣不忠ナルヘカラスト、
諸侯遂ニ相率、井テ之ニ帰ス、○紂材カ人ニ過キ、猛獸ヲ
手格ス、智ハ以テ諫メヲ拒クニ足リ、言ハ以テ非ヲ飾ル
ニ足ル、天下ニナレカ下ニ出ルヲ視テ、酒ヲ好テ淫樂
ナリ、始テ象箸ヲ作ル、箕子嘆シテ曰、今象箸ヲ作ラハ必
ス玉杯ヲ為ラン、玉杯象箸必ス將ニ熊蹯豹胎ヲ食ハン

トス、他又之ニ称ヘテ欲ヲ足サンコトヲ求メハ、天下其レ
殆シト、○十三祀、西伯ヲ釋ス、西伯ノ囚ハル、ヤ、其臣闕
夫ノ徒君ヲ救ハンコトヲ謀リ、美女善馬ヲ求メテ之ヲ紂
ニ獻ス、紂大ニ悦テ之ヲ釋ス、西伯又洛西ノ地ヲ獻シテ、
炮烙ノ刑ヲ除カント請フ、紂之ヲ許シ之ニ弓矢斧鉞ヲ
賜テ、征伐ヲ專ラニセシム、○十四祀、虞芮ノ人獄アリ、決
スル能ハス、乃チ周ニ如ク、界ニ入レハ則耕ス者ミナ畔
ヲ讓リ、民俗ミナ長ニ讓ル、虞芮ノ人ミナ慙チ相謂テ曰、
吾カ争フ所ハ周人ノ恥ル所、何ソ往クコトヲ為サン、祇ニ
辱ヲ取シノミト、遂ニ還リ俱ニ讓テ去ル、○十五祀、西伯

呂尚ヲ立テ、師ト為ス、尚ノ先祖禹ヲ佐ケテ水土ヲ平
ラケ、功ヲ以テ呂ニ封セラレ、姓ハ姜氏、西伯出テ、獵セ
ントス、之ヲトスルニ曰、龍ニ非ス、黿ニ非ス、罴ニ非ス、虎
ニ非ス、獲ル所ハ霸王ノ輔ナラント、果シテ太公ニ渭水
ノ陽ニ遇フ、年七十餘、與ニ語り大ニ悦テ曰、吾カ太公ヨ
リ曰、當ニ聖人アリテ周ニ適クヘシ、周以テ興ラント、子
真ニ是レ耶、吾カ太公子ヲ望ムコト久シト、故ニ号シテ太
公望ト曰フ、載セテ與ニ俱ニ歸リ立テ、師ト為シ、之ヲ
尊テ尚父ト曰フ、○二十祀、周ノ西伯昌薨シ、世子發嗣テ
立ツ、是ヲ武王ト為ス、○三十一祀、周ノ西伯東兵ヲ孟津

二觀ス時ニ諸侯ノ期セスシテ會スル者八百、ミナ曰紂
伐ツヘシ、西伯曰、天命未タ可ナラスト、乃チ師ヲ引テ還
ル、○三十二祀、紂愈々淫乱ニシテ止マズ、庶兄微子數々
諫レト從ハス、乃チ去テ荒野ニ避ル、比干曰、人臣タル者
死ヲ以テ爭ハサルヲ得スト、強テ紂ヲ諫メテ三日去ラ
ス、紂怒テ曰、比干自ラ以テ聖人ト為ス、吾レ聞ク聖人ノ
心ニ七竅アリト、遂ニ剖キテ其心ヲ觀ル、箕子懼レテ被
髮佯狂シテ奴ト為ル、紂之ヲ囚フ、太師少師其祭器ヲ抱
テ周ニ奔ル、紂竟ニ悛メズ、遂ニ周王發ノ為ニ亡サル、殷
凡テ三十一世六百二十九年、

周紀

○武王 姓ハ姬氏名ハ發、文王ノ子、后稷十六世ノ孫
ナリ、后稷名ハ棄、兎タリシ片屹トシテ巨人ノ志ノ如ク、
其遊戲種樹ヲ好ミ、成人タルニ及ヒ、能ク地ノ宜キヲ相
テ民ニ稼穡ヲ教フ、堯舉テ農師ト為ス、唐虞大夏ノ際ニ
興ル、○三十三祀二月、周王諸侯ノ師ヲ率井テ紂ヲ討ツ、
紂モ亦兵ヲ發シテ之ヲ牧野ニ距ク、甲子ノ日、紂カ兵敗
レ、紂走テ鹿臺ニ登リ、其室玉ノ衣ヲ夜テ火ニ赴テ死ス、
王遂ニ妲己ヲ殺シ、箕子ノ囚ヲ釋シ、比干ノ墓ニ封シ、商
容ノ閭ニ表シ、紂カ子武庚祿父ヲ封シテ殷ノ祀ヲ續カ

レム、殷ノ民大ニ悦フ、是ニ於テ王天子ノ位ニ即キ、國ヲ
 周ト號シ、建子ノ月ヲ以テ歲首ト為ス、商ノ舊政ニ復シ、
 都ヲ鎬ニ遷ス、○王ノ紂ヲ討ツヤ、孤竹君ノ二子伯夷叔
 齊馬ヲ扣ヘ、君臣ノ大義ヲ陳ヘテ王ヲ諫ム、左右之ヲ兵
 セントス、大公曰、義人ナリト、扶ケテ之ヲ去ラシム、商亡
 ルニ及ヒ、夷齊首陽山ニ隱レテ、義周ノ粟ヲ食ハス、歌ヲ
 作テ曰、登彼西山兮、采其薇矣、以暴易暴兮、不知其非矣、神
 農虞夏忽焉、沒兮、我安適歸矣、于嗟徂兮、命之衰矣、（名ヲ）遂ニ
 餓テ死ス、○十六年祀ヲ改テ夏、箕子來朝ス、箕子故ノ殷
 ノ墟ヲ過キ、宮室毀壞シテ、禾黍ノ生スルヲ傷ミ、麥秀ノ

歌ヲ作ル、曰、麥秀漸々兮、禾黍油々兮、彼狡童兮、不與我好
 兮、ト、殷ノ遺民之ヲ聞テ流涕セサル者ナシ、○十九年王
 崩ス、王侯位ニ在ル、十三年、王位七年、

○成王 名ハ誦、武王ノ子ナリ、王襁褓ノ中ニ在リ、周
 公天下ノ畔カン、トヲ恐レ、乃チ王ニ代リ政ヲ攝行シテ
 國ニ當リ、公ノ元子伯禽ニ命シ、代テ封ニ魯ニ就カシム
 公之ヲ戒テ曰、我一沐ニ三夕ヒ髮ヲ握リ、一飯ニ三夕ヒ
 哺ヲ吐キ、起テ以テ士ヲ待ツ、猶ホ天下ノ賢人ヲ失ハン
 トヲ恐ル、汝慎テ國ヲ以テ人ニ驕ル、ト勿レト、○周公ノ
 政ヲ攝スルヤ、管叔蔡叔群弟ト周公ヲ疑ヒ、武庚ト乱ヲ

作シテ周ニ畔ク、周公王ノ命ヲ奉シ武庚管叔ヲ誅伐シ、
蔡叔ヲ放チ、微子啓ヲ以テ殷ノ後ニ代ラシム、王長メ周
公政ヲ帰ス、○六年、越裳氏來朝ス、交趾ノ南ニ越裳氏ア
リ、三譯ヲ重子テ來リ白雉ヲ獻ス、周公曰、德澤加ハラサ
レハ君子其贄ヲ受ケス、政令施サ、レハ君子其人ヲ臣
トセス、譯曰、吾カ國ノ黃耆曰、天ニ烈風淫雨ナク、海波ヲ
揚ケサル、三年、意フニ中國ニ聖人アラン乎ト、是ニ於
テ來朝スト、使者歸路ニ迷フ、周公賜フニ駟車ヲ以テス、
ミナ指南ノ制ヲ以テス、使者之ニ載テ期年ニシテ其國
ニ至ル、○七年、宅ヲ洛ニトス、初メ武王洛ノ天下ノ中々

ルヲ以テ、九鼎ヲ洛邑ニ遷シテ洛ニ宅ルノ志アリ、是ニ
至リ王周公召公ニ命シテ之ヲ營セシム、既ニ成リ之ヲ
成都ト謂ヒ、鼎ヲ郊廓ニ定ム、○九年、弟叔虞ヲ封シテ唐
侯ト為ス、初メ王叔虞ト戲レ、桐葉ヲ削リテ珪ト為シ曰
此ヲ以テ汝ヲ封セント、史佚曰、天子ニ戲言ナシト、遂ニ之ヲ封ス、
レ戲ル、ノミ、史佚曰、天子ニ戲言ナシト、遂ニ之ヲ封ス、
○三十七年、王崩ス、
○康王 名ハ釗、成王ノ子ナリ、○二十六年、太保召公
奭薨ス、公西方ヲ治メテ甚タ民ノ和ヲ得タリ、郷邑ヲ巡
行シテ訟ヲ察樹ノ下ニ聽ク、薨スルノ後人其政ヲ思テ

棠樹ヲ伐ルニ忍ヒス、甘棠ノ詩ヲ作ル、○是歲、王崩ス、成
康ノ際、天下安寧、刑措テ四十餘年用井ス、

○昭王 名ハ瑕康王ノ子ナリ、世ニ傳フ王徳衰ヘ南
征シテ漢ヲ濟ルル、漢濱ノ人膠舟ヲ進ム、中流ニ至リテ
膠液シ舟解ケ、王溺レテ還ラスト、在位五十一年、

○穆王 名ハ滿昭王ノ子ナリ、王ノ位ニ即クヤ年已
ニ五十王道衰微ス、王文武ノ道ノ缺ントヲ閔レシ、伯冏
ニ命シテ冏命ヲ作ラシメ、以テ國政ヲ申誠ス、邦國復タ
寧シ、○三十五年、王犬戎ヲ征ス、祭公謀父諫テ曰、先王徳
ヲ耀カシテ兵ヲ觀サスト、王聽カスシテ之ヲ征ス、四ノ

白狼四ノ白鹿ヲ得テ歸ル、是ヨリ荒服至ラス、諸侯睦シ
カラス、○五十年、呂刑ヲ作ル、王八駿馬ヲ得テ之ニ駕シ、
意ヲ肆マ、ニシテ遠游ス、是ニ於テ財匱ク民疲レ、以テ
計ヲ為スナシ、乃チ大司寇呂侯ニ命シテ贖刑ノ書ヲ作
ラシメ、大辟ニ至ルト雖在贖ヲ以テ免ル、トヲ得セシ
ム、民財ヲ斂メテ荒亡ノ欲ヲ濟ハント欲スルナリ、○五
十五年、王崩ス、

○共王 名ハ翳扈穆王ノ子ナリ、在位十二年、

○懿王 名ハ躋共王ノ子ナリ、在位二十五年、徙テ槐
里ニ都シ、王室遂ニ衰フ、

○孝王 名ハ辟方懿王ノ弟ナリ、在位十五年、

○夷王 名ハ燹懿王ノ子ナリ、在位十六年、

○厲王 名ハ胡夷王ノ子ナリ、○三十年、榮ノ夷公ヲ

以テ卿士ト為ス、王利ヲ好テ夷公ヲ近ツク、芮良夫諫テ

曰、夫レ人ニ君タル者ハ將ニ利ヲ導キテ之ヲ上下ニ布

カントスル者ナリ、今王利ヲ專ラニスル丁ヲ學フ、其レ

可ナランヤ、匹夫利ヲ專ラニスル夕モ猶ホ之ヲ盜ト謂

フ、王ニシテ之ヲ行ハ、其レ帰スル者鮮カラン、榮公若

シ用井ラレハ周必ス敗レント、王聴カス、○三十三年、王

虐ナリ召公告テ曰、民命ニ堪ヘスト、王怒テ衛ノ巫ヲシ

テ謗ル者ヲ監セシメ、以テ告レハ則之ヲ殺ス、國人敢テ

言フ者ナク、道路目ヲ以テス、王喜テ召公ニ告テ曰、吾レ

能ク謗ヲ弭ムト、召公曰、是レ之ヲ障クナリ、民ノ口ヲ防

クハ川ヲ障クヨリ甚シ、川壅リテ潰レハ人ヲ傷ル丁多

シ、民モ亦此ノ如シト、王聴カス、國人乃チ相共ニ畔テ王

ヲ襲フ、王彘ニ出奔ス、太子靜召公ノ家ニ匿ル、國人之ヲ

圍ム、召公曰、王吾カ諫メニ従ハスシテ此難ニ及ヘリ、今

太子ヲ救ハスンハ、王其レ我ヲ以テ怨テ怒ルト為サン、

夫レ君ニ事ル者ハ、險ニシテ怨ミス、怨ノ所怒ラスト、乃

チ其子ヲ以テ太子ニ代フ、太子遂ニ免ル、丁ヲ得タリ、

王已ニ出奔シ、召公周公政ヲ行フ、号シテ共和ト曰フ、共
和ノ十四年厲王彘ニ死ス、太子靜召公ノ家ニ長ス、二相
共ニ之ヲ立ツ、

○宣王 名ハ靜厲王ノ子ナリ、二公政ヲ輔ケ、文武成
康ノ遺風ニ法リ、王化復タ行レ、周室中興ス、在位四十六
年、

○幽王 名ハ宮涅宣王ノ子ナリ、○二年、西周三川ミ
ナ震フ、伯陽父曰、昔伊洛竭キテ夏亡ヒ、河竭キテ商亡フ、
今周徳二代ノ季ノ如シ、山崩レ川竭ルハ亡ノ徴ナリ、國
ノ亡ン丁十年ニ過キスト、○三年、褒人罪アリ、女ヲ入レ

テ以テ贖フ、是ヲ褒姒ト為ス、王之ヲ愛シテ子伯叔ヲ生
ム、是ニ於テ申后及ヒ太子宜臼ヲ廢シ、褒姒ヲ以テ后ト
為シ、伯叔ヲ太子ト為ス、褒姒笑フトテ好マス、王其笑ハ
ントテ欲シテ萬方ニスレ、凡テ笑ハス、王諸侯ト約シ、寇ノ
至ルアレハ、則烽火ヲ舉テ其兵ヲ召ス、乃チ故ナクシテ
火ヲ舉ク諸侯悉ク至レ、凡テ寇ナシ、褒姒大ニ笑フ、○十一
年、申后申后ノ父西夷犬戎ト與ニ王ヲ攻ム、王烽火ヲ舉レ、
兵ノ至ルナシ、遂ニ王ヲ驪山ノ下ニ殺シ、褒姒ヲ虜ニシ
盡ク周ノ賂ヲ取テ去ル、是ニ於テ諸侯共ニ故ノ太子宜
臼ヲ立ツ、

○平王 名ハ宜臼幽王ノ子ナリ、○元年都ヲ東都ノ
洛邑ニ遷ス、豊鎬ノ犬戎ニ逼ルヲ以テナリ、時ニ周室衰
微シ諸侯強弱ヲ并セ、齊楚秦晉始テ大ナリ、政方伯ヨリ
出ツ、王ノ四十九年ハ即チ魯ノ隱公ノ元年ナリ、其後孔
子ノ春秋ヲ作ル此ニ始ル、○四十九年、王崩ス、
○桓王 名ハ林平王ノ孫太子洩ノ子ナリ、○十三年
秋、王鄭ヲ伐ツ、初メ鄭ノ武公子莊公ト俱ニ平王ノ卿士
タリ、平王崩スルニ及ヒ周人將ニ虢公ニ政ヲ畀ヘント
ス、鄭ノ祭足師ヲ帥井テ温ノ麥ヲ取り、又成周ノ禾ヲ取
ル、是ニ於テ周鄭交々惡シ、是ニ至テ王諸侯ノ兵ヲ率井

テ鄭ヲ伐ツ、鄭伯之ヲ禦キテ繻葛ニ戰フ、祝聃王ヲ射テ
肩ニ中ツ、○二十三年、王崩ス、

○莊王 名ハ佗桓王ノ子ナリ、○十二年九月、齊ノ公
子小白立ツ、初メ襄公連称管至父ヲシテ葵丘ヲ成ラシ
ム、瓜時ニシテ往ク、曰瓜ニ及ンテ代ヘント、往テ成ル
一歳代ラント請ヘレ許サス、是ニ於テ二人公孫無知ニ
因テ乱ヲ作シ襄公ヲ弑ス、而シテ無知自立ス、群弟禍ノ
及ハン、一ヲ恐レ、子糾魯ニ奔ル、管仲召忽之ニ傳タリ、小
白莒ニ奔ル、鮑叔之ニ傳タリ、此年春大夫雍廩無知ヲ殺
ス、魯侯之ヲ聞キ兵ヲ發シテ子糾ヲ送リ、管仲ヲシテ別

二兵ヲ將井テ莒ノ道ヲ遮ラシム、仲射テ小白ノ帶鉤ニ
中ツ、小白佯テ死シ先ツ齊ニ至テ立ツ、是ヲ桓公ト為ス、
是ニ於テ魯ヲシテ子糾ヲ殺サンム、召忽之ニ死ス、管仲
囚ハレント請フ、鮑叔管仲ヲ薦ム、桓公之ヲ魯ニ請ハシ
ム、莒公以テ施伯ニ問フ、對テ曰、管子ハ天下ノ才ナリ、在
ル所ノ國ハ必ス志ヲ天下ニ得シ、之ヲ殺シテ其屍ヲ授
クヘシト、莊公聽カス、束縛シテ以テ齊ノ使者ニ予フ、至
ル比ホヒ桓公親カラ之ヲ郊ニ迎ヘ用井テ相ト為シ、号
シテ仲父ト曰フ、桓公諸侯ヲ九合シ天下ヲ一匡スル、ミ
ナ仲ノ謀ナリ、○十五年、王崩ス、

○僖王 名ハ胡桓王ノ子ナリ、在位五年、

○惠王 名ハ閔僖王ノ子ナリ、○十七年十二月、狄人
衛ヲ伐ツ、衛ノ懿公鶴ヲ好ミ、鶴軒ニ乗ル者アリ、將ニ戰
ハントス、國人甲ヲ受ル者ミナ曰、鶴ヲ使ヘ鶴實ニ祿位
アリ、余等焉クニ能ク戰ハント、狄遂ニ衛ヲ滅ス、衛ノ遺
民戴公ヲ立ツ、明年卒ス、齊ノ桓公諸侯ヲ率井テ狄ヲ伐
チ、衛ノ為ニ楚丘ニ築キ、戴公ノ弟燬ヲ立ツ、是ヲ文公ト
為ス、○二十五年、王崩ス、

○襄王 名ハ鄭惠王ノ子ナリ、○元年夏、齊ノ桓公諸
侯ト葵丘ニ會ス、王、宰孔ヲシテ齊侯ニ胙ヲ賜ハシム、命

シテ曰下拜スル勿レト、對テ曰、天威顔ヲ違ラサル一咫尺、小白敢テ天子ノ命ヲ貪リテ、下拜スル一無カラシヤト、下拜シテ登リテ受ク、○九年冬、齊ノ桓公卒ス、桓公内寵多ク内嬖夫人ノ如キ者六人、五子ヲ生ム、五子黨ヲ樹テ、立ツ一ヲ争ヒ、公卒シテ尸、林ニ在ル一六十七日、尸蟲戸ヨリ出ツ、○十五年、王狄ニ命シテ鄭ヲ伐タシ、狄ノ女隗氏ヲ以テ后ト為ス、富辰諫テ曰、女徳極リナク婦怨終リナシ、狄必ス患ヲ為サント、王聽カス、○十六年正月、晋ノ公子重耳晋ニ入ル、重耳ハ獻公ノ庶子ナリ、獻公驪姫ヲ嬖シ其子奚齊ヲ立ント欲ス、遂ニ驪姫カ讒ヲ聽

テ太子申生ヲ殺シ、重耳ヲ蒲ニ伐ツ、重耳恐レテ狄ニ奔ル、狄ハ其母ノ國ナリ、狄ニ處ル一十二年ニシテ齊ニ至ル、齊ノ桓公之ニ妻ハス、楚ニ至ル楚子饗シテ之ヲ秦ニ送ル、晋ノ恵公卒スルニ及ヒ、秦兵ヲ發シ送テ之ヲ帰ヘス、晋之ヲ立ツ是ヲ文公ト為ス、文公外ニ居ル一十九年、帰ルニ及テ從亡ノ者狐偃、趙衰、顛頡、魏犢ヲ賞ス、介子推禄ヲ言ハス、禄モ亦及ハス、其母ト俱ニ隠レテ死ス、文公之ヲ求レテ獲ス、其綿上山中ニ入ルヲ聞キ、其山ヲ環ラシテ之ヲ封シ、以テ介推カ田ト為ス、号シテ介山ト曰フ、○秋、狄入テ寇ス、初メ王ノ母弟叔帶隗氏ニ通ス、王隗氏

ヲ廢ス、狄人乃チ叔帶ヲ奉シテ王ヲ攻ム、富辰其屬ヲ帥
テ之ニ死ス、王鄭ニ奔ル、○十七年四月、晋公重耳兵ヲ發
シ王ヲ迎ヘテ王城ニ納レ、叔帶ヲ誅ス、王乃チ文公ニ珪
鬯弓矢ヲ賜ヒ、命シテ伯ト為ス、文公隧ヲ請フ許サス、之
ニ陽樊、温、原、欒、茅ノ田ヲ與フ、○二十五年、秦ノ穆公兵ヲ
發シテ鄭ヲ伐チ、孟明、西乞、白乙ヲシテ將タラシム、蹇叔
哭シテ其子ヲ送テ曰、晋人師ヲ禦カハ必ス殺ニ於テセ
ン、殺ニ二陵アリ必ス此間ニ死セン、余爾カ骨ヲ収メ
ト、滑ニ及フ、滑ハ晋ノ邊邑ナリ、時ニ晋ノ文公卒ス、襄公
怒テ兵ヲ發シ、大ニ秦ノ師ヲ殺ニ敗リ、三將ヲ虜ニス、文

公ノ夫人ハ秦ノ女ナリ、襄公ニ謂テ曰、秦三將ヲ得テ戮
セント欲スト、襄公之ヲ遣ル、○二十八年、穆公益ク孟明
等ヲ厚クシ、五月、兵ヲ將キテ晋ヲ伐タシメ、王官及ヒ郊
ヲ取り、以テ殺ノ役ニ報ス、○二十九年、王秦伯ニ命シテ
西方諸侯ノ伯ト為ス、秦由余ノ謀ヲ用キテ戎ヲ伐チ、國
ヲ益ス、一十二、地ヲ開ク、一千里、遂ニ西戎ニ覇タリ、三十
一年夏、穆公卒ス、殉死ノ者百七十七人、秦ノ良臣子輿氏
三人亦殉死ノ中ニ在リ、秦人之ヲ哀ミテ為ニ黃鳥ノ詩
ヲ賦ス、

○頃王 名ハ壬臣、襄王ノ子ナリ、在位六年、

○匡王 名ハ班頃王ノ子ナリ、○六年九月、晋ノ趙盾其君靈公ヲ弑ス、初メ靈公不君ナリ、盾數ク之ヲ諫ム、公之ヲ患ヒ、鉏麇ヲシテ盾ヲ刺サシム、晨ニ往ケハ寢門開ケリ、盛服シテ將ニ朝セントシテ尚ホ早ク坐シテ而シテ假寐ス、麇退テ嘆シテ曰、恭敬ヲ怠レサルハ民ノ主ナリ、忠臣ヲ殺スト君命ヲ棄ルト其罪一ナリト、庭樹ニ觸レテ死ス、此月、公盾ニ酒ヲ飲マシメ、甲ヲ伏セテ之ヲ攻ントス、其右提弥明扶ケテ以テ下ル、公又熨ヲ啖ス、明奪テ之ヲ搏チ殺シ、闔ヒ且ツ出テ遂ニ之ニ死ス、初メ盾首山ニ田シテ翳桑ノ下ニ舍シ、靈輒カ餓ルヲ見テ之ニ食

ヲ與フ、時ニ公ノ介士ト為リ戟ヲ倒ニシ、公ノ徒ヲ禦キテ盾ヲ免レシム、盾遂ニ奔ル、未タ晋ノ境ヲ出テス、盾カ從兄弟子穿襲テ靈公ヲ桃園ニ弑シテ盾ヲ迎フ、太史董狐書シテ曰、趙盾其君ヲ弑スト、盾曰弑スル者ハ趙穿ナリ、我レ罪ナシ、太史曰、子正卿ト為リ亡ケテ境ヲ出テス、反テ賊ヲ討タス、子ニ非スシテ誰ソ、孔子之ヲ聞テ曰、董狐ハ古ノ良史ナリ、法ヲ書シテ隱サスト、○是歲王崩ス、○定王 名ハ瑜匡王ノ弟ナリ、○元年正月、楚ノ莊王陸渾ノ戎ヲ伐チ、遂ニ洛ニ至リ、兵ヲ周ノ疆ニ觀ス、王王孫滿ヲシテ之ヲ勞セシム、楚王鼎ノ輕重ヲ問フ、對テ曰

徳ニ在テ鼎ニ在ラス、周徳衰ヘタリト雖、氏天命未タ改
ラス、鼎ノ輕重未タ問フヘカラスト、楚王慙テ退ク、○十
年、晋ノ趙盾卒シ子朔嗣ク、時ニ屠岸賈司寇タリ、靈公ノ
賊ヲ治メテ盾ヲ賊首ト為シ、朔ヲ殺シテ其族ヲ滅ス、朔
カ客公孫杵臼朔カ友人程嬰ニ謂テ曰、何ソ死セサルヤ、
嬰曰、朔ノ婦遺腹アリ、若シ幸ニシテ男ナラハ、吾レ之ヲ
奉セント、樂クモナクシテ男生ル、嬰杵臼ニ謂テ曰、孤ヲ
立ルト死スルトハ孰レカ難キ、嬰曰、死スルハ易ク、孤
ヲ立ルハ難シ、杵臼曰、子ハ其難キ者ヲ為セヨ、吾ハ其易
キ者ヲ為サント、乃チ他人ノ嬰児ヲ取リ之ヲ負テ山中

ニ匿ル、嬰出テ、謬テ曰、我ニ千金ヲ與ヘハ吾趙氏ノ孤
ノ處ヲ告ント、賈遂ニ杵臼ト孤児トヲ殺ス、而シテ趙氏
ノ真ノ孤ハ在リ、嬰共ニ山中ニ匿レ名ツケテ武ト曰フ、
後十五年武長シ嬰ト謀テ賈氏ヲ滅ス、○二十一年、王崩
ス、

○簡王 名ハ夷定王ノ子ナリ、在位十四年、

○靈王 名ハ洩心簡王ノ子ナリ、○二十一年十一月、

孔子生ル、○二十四年五月、齊ノ崔舒其君莊公ヲ弑ス、太
史書シテ曰、崔舒其君ヲ弑スト、崔子之ヲ殺ス、其弟嗣テ
書シテ死スル者二人、其弟又書ス、乃チ之ヲ舎ス、南史氏

太史盡ク死スルト聞テ、簡ヲ執テ往ク、既ニ書スト聞テ乃チ還ル。○二十七年、王崩ス。

○景王 名ハ貴靈王ノ子ナリ。○元年五月、吳子札ヲ

シテ魯ニ聘セシム。札周樂ヲ觀ント請フ、魯人為ニ六代

ノ樂ヲ奏ス、初ノ札上國ニ使スル片、徐ヲ過ク、徐君札カ

劍ヲ好シテ口敢テ言ハス、札心ニ之ヲ知ル、使シテ還リ

徐ニ至レハ、徐君已ニ死ス、乃チ其寶劍ヲ解キ之ヲ徐君

ノ冢樹ニ懸テ去ル。○二年十月、鄭公孫僑ヲシテ政ヲ為

サシム、僑字ヲ子産ト曰フ、其政ヲ為スヤ、都鄙章アリ上

下服アリ、田ニ封域アリ、廬井ニ伍アリ、大夫ノ忠儉ナル

者ハ從テ之ニ與ヘ、泰侈ナル者ハ從テ之ヲ斃ス、政ニ從

フト一年、輿人之ヲ誦シテ曰、取我衣冠而褚之、取我田疇

而伍之、孰殺子産、吾其與之ト、三年ニ及テ又誦シテ曰、我

有子弟子産誨之、我有田疇子産殖之、子産而死誰其嗣之

ト、○二十三年春、孔子周ニ適テ禮ヲ老子ニ問フ、老子曰、

良賈ハ深ク蔵メテ虚ナルカ如ク、君子ハ盛徳アリテ容

貌愚ナルカ如シト、老子名ハ耳字ハ聃、楚ノ人、周ノ守蔵

ノ吏タリ、道德經五千餘言ヲ著ス、其終ル所ヲ知ルナシ、

○十二月、鄭ノ大夫公孫僑卒ス、其疾ムヤ子大叔ニ謂テ

曰、我レ死セハ子必大政ヲ為サン、唯徳アル者能ク寛ヲ

以テ民ヲ服ス、其次ハ猛ニ如ク莫シ、夫レ火ハ烈シ、民望
テ之ヲ畏ル、故ニ死スル者鮮シ、水ハ懦弱ナリ、民狎レテ
之ヲ玩フ、則死スル者多シト、卒スルニ及ヒ、仲尼涕ヲ出
シテ曰、古ノ遺愛ナリト、○二十七年王崩ス

○悼王 名ハ猛、景王ノ子ナリ、在位九月ニシテ崩ス、

○敬王 名ハ丐、悼王ノ弟ナリ、○十五年六月、楚ノ申

包胥、秦ノ師ヲ乞テ楚ヲ救フ、初メ伍員ノ父奢、楚ノ平王

ノ為ニ殺サレ、員、吳ニ奔ル、包胥ハ其友人ナリ、員之ニ謂

テ曰、我必ス楚ヲ覆ヘサン、包胥曰、我必ス之ヲ存セント、

員遂ニ吳ヲ導キテ楚ヲ伐チ、平王ノ尸ヲ鞭ツ、三百昭

王隨ニ奔ル、包胥走テ急ヲ秦ニ告ク、秦許サス、包胥秦庭

ニ立チ、晝夜哭スル、七日七夜聲ヲ絶タス、哀公之ヲ憐

ミ、兵ヲ發シテ楚ヲ救フ、○二十年夏、魯侯、齊侯ニ夾谷ニ

會ス、孔子時ニ大司寇アリ、曰、文事アル者必ス武備アリ、

請フ左右ノ司馬ヲ具ヘテ以テ從ヘント、會ニ及ヒ、齊萊

人ヲシテ樂ヲ奏セシメ、魯君ヲ執ヘント、欲ス、孔子歷階

シテ登テ曰、夷華ヲ乱ラス、兵好ニ逼ラス、兩君好ミヲ為

ス、夷狄ノ樂何ンスレソ、此ニ於テスト、齊侯之ヲ止ム、歸

テ、其臣ニ告テ曰、魯ハ君子ノ道ヲ以テ、其君ヲ輔ク、而シ

テ、子ハ獨リ夷狄ノ道ヲ以テ、寡人ニ教ヘ、罪ヲ魯君ニ得

セシムト、晏子曰小人ノ過ヲ謝スルヤ文ヲ以テス、君子ノ過ヲ謝スルヤ質ヲ以テスト、乃チ侵ス所ノ鄆、謹龜陰ノ田ヲ帰ヘス、晏子名ハ嬰、齊ニ相トシテ食肉ヲ重子ス、妾帛ヲ衣ス、先人ヲ祀ルニ豚肩豆ヲ掩ハス、一狐裘三十年、節儉ヲ以テ齊ニ重ンセラル、○二十三年冬、魯孔子ヲ以テ相ノ事ヲ攝行セシム、七日ニシテ政ヲ乱ル大夫少正卯ヲ誅ス、政ヲ執ル一三月、男女行ク者塗ヲ別ニシ、道遺ナタルヲ拾ハス、男ハ忠信ヲ尚ヒ、女ハ貞順ヲ尚フ、四方ノ客至ル一帰ルカ如シ、○二十四年五月、吳越ヲ伐ツ、越王句踐之ヲ禦キ、襲テ吳ノ師ヲ攜、李ニ敗リ、射テ闔廬

ニ傷ク、闔廬遂ニ卒シ、夫差嗣テ立ツ、夫差人ヲシテ庭ニ立タシメ、苟モ出入スレハ必ス已レニ謂ハシメテ曰、夫差而チ越王ノ而カ父ヲ殺セシヲ恣レタル乎ト、○二十六年春、吳王夫差越ヲ夫椒ニ敗ル、攜李ノ役ニ報スルナリ、越王乃チ餘兵五千人ヲ以テ會稽山ニ保チ、大夫種ヲシテ吳ノ太宰、詔ニ因テ成キヲ行ハシム、請フラク國ヲ委子テ臣妾タラント、吳王許サントス、伍員曰不可ナリ、徳ヲ樹ルハ滋キニ若クナク、疾ヲ去ルハ盡ルニ若クナシト、詔越ノ賂ヲ受ケ、夫差ニ説テ越ヲ赦ス、負退テ人ニ謂テ曰、越十年生聚シ、十年教訓セハ、二十年ノ外、吳其レ

沼ト為ラント、○三十六年冬、孔子衛ヨリ魯ニ歸ル、魯終ニ用ル能ハス、乃チ書傳ヲ序シ、上唐虞ノ際ヨリ下秦穆ニ至ル、古詩三千餘篇ヲ刪リテ三百五篇ヲ存ス、ミナ之ヲ絃歌ス、禮樂是ヨリ述フヘシ、晚ニシテ易ヲ喜ミ、彖象繫辭說卦文言ヲ序ス、易ヲ讀テ韋編三タヒ絶ツ、詩書禮樂ヲ以テ子弟ニ教ス、子弟三千人、身六藝ニ通スル者七十二人、○三十九年、孔子春秋ヲ脩ム、上隱公ヨリ下哀公ノ十四年ニ至ル、筆スヘキハ則之ヲ筆シ、削ルヘキハ則之ヲ削ル、游夏ノ徒一辭ヲ賛スル能ハス、○六月、齊ノ陳恒其君簡公ヲ弑シテ其弟驁ヲ立ツ、初メ齊ノ桓公ノ世

ニ、陳ノ厲公ノ子完罪ヲ陳ニ得、齊ニ奔テ田氏ト為リ、其後齊國亂レテ權、田氏ニ歸ス、田氏施シテ好ミ、大斗ヲ以テ粟ヲ民ニ貸シ、小斗ヲ以テ之ヲ收ム、民ミナ之ヲ戴ク、遂ニ君ヲ弑スルニ至ル、恒ハ完カ七世ノ孫ナリ、○四十年夏、熒惑心ヲ守ル、心ハ宋ノ分野ナリ、景公之ヲ憂フ、司星子韋曰、相ニ移スヘシ、公曰、相ハ吾ノ股肱ナリ、曰、民ニ移スヘシ、公曰、君ハ民ヲ待ツ、曰、歲ニ移スヘシ、公曰、歲饑レハ民困ム、吾レ誰カ為ニ君タラント、子韋曰、天ハ高クシテ界キニ聽ク、君人ニ君タルノ言三ツアリ、熒惑宜シク動ク、一アルヘシト、果シテ徙ル、一三度、○四十一年、孔

子魯ニ卒ス、○四十四年、王崩ス、

○元王 名ハ仁敬王ノ子ナリ、○三年十一月、越、吳ヲ滅ス、吳ノ越ヲ赦スヤ、勾踐國ニ反リ、膽ヲ坐ニ置キ、坐卧ニ膽ヲ仰テ曰、汝會誓ノ恥ヲ忘レタル乎ト、節ヲ折テ賢人ニ下リ、百姓ト勞苦ヲ同クシ、國政ヲ舉テ大夫種ニ屬シ、而シテ范蠡ト共ニ兵ヲ治メテ、吳ニ報セシメテ事トス、吳王太宰嚭カ諂ヲ聽キ、子胥伍員ニ屬鏹ノ劍ヲ賜テ自殺セシム、子胥使者ニ報シテ曰、吾眼ヲ抉リテ吳ノ東門ニ懸ケヨ、以テ越兵ノ入テ吳ヲ滅スルヲ觀シト、乃チ自剄ス、子胥既ニ死シ、嚭專ラ政ヲ為ス、是ニ至リ、越、天ニ

吳ヲ破ル、夫差姑蘇ノ山ニ上リ、亦成キテ越ニ請フ、勾踐之ヲ許サシトス、范蠡曰、君王之ヲ謀ル、二十二年、一旦之ヲ棄テ、可ナランヤ、君會誓ノ厄ヲ忘レタル乎ト、遂ニ兵ヲ進ム、夫差曰、以テ子胥ヲ見ルナシト、其面ヲ蔽フテ自剄ス、勾踐已ニ吳ヲ平ラケ、北淮ヲ渡リテ貢ヲ周ニ致ス、王命シテ伯ト為ス、是時ニ當リ、越ノ兵江淮ノ東ニ横行シ、諸侯畢ク賀シ、號シテ霸王ト稱ス、范蠡遂ニ越ヲ去リ、大夫種ニ書ヲ遺テ曰、越、王人ト為リ、長頸烏喙、與ニ患難ヲ同クスヘク、與ニ安樂ニ處ルヘカラス、子何ソ去ラサルヤト、種書ヲ見テ疾ト稱シテ朝セス、人或ハ種乱

ヲ為スト讒ス、王乃チ種ニ劍ヲ賜フ、種自殺ス、范蠡其輕
宝珠玉ヲ裝シテ、私從ト扁舟ニ乘シテ江湖ニ浮ヒ、遂ニ
齊ニ出テ、姓名ヲ變シテ自ラ鳩夷子皮ト謂フ、父子産ヲ
治メテ數千萬ニ至ル、齊人其賢ナルヲ聞テ相ト為ス、
蠡喟然トシテ曰、家ニ居テ八千金ヲ致シ、官ニ居テ八卿
相ヲ致ス、此レ布衣ノ極ナリ、久ク尊名ヲ受ルハ不祥ナ
リト、乃チ相ノ印ヲ歸シ、盡ク其財ヲ散シ、重宝ヲ懷キテ
間行シ、陶ニ止リ自ラ陶朱公ト謂フ、資巨萬ヲ累テ、卒ニ
陶ニ老死スト云、○六年王崩ス、
○貞定王 名ハ介元王ノ子ナリ、○十一年、晋ノ智伯

趙韓魏氏ト共ニ范氏中行氏ヲ滅シテ其地ヲ分ツ、○十
四年、智伯魏氏韓氏ト約シテ趙襄子ヲ攻ム、初メ趙簡子
尹鐸ヲシテ晋陽ヲ為メシム、請テ曰、以テ繭絲ヲ為サン
乎、抑々保障ヲ為サン乎、簡子曰、保障ナル哉ト、尹鐸其戸
數ヲ損ス、簡子襄子ヲ誡テ曰、吾國難アラハ汝晋陽ヲ以
テ遠シトスル勿ク、必ス以テ歸トセヨト、是ニ至リ乃チ
晋陽ニ走ル、○十五年、智伯韓魏ト晋陽ヲ圍テ之ニ灌ク、
城浸サル者三版、沈竈蛙ヲ産スレ、民叛意ナシ、○十
六年、趙襄子潛カニ韓魏ト約シ、與ニ智伯ヲ攻メテ之ヲ
殺シ、其族ヲ滅レテ其地ヲ三分ス、○襄子智伯ノ頭ニ漆

シテ酒器ト為ス、智伯ノ臣豫讓為ニ讎ヲ報ント欲シ、七
首ヲ挾ミ襄子ノ宮中ニ入リテ廁ヲ塗ル、左右之ヲ殺サ
ントス、襄子義トシテ之ヲ舍ス、讓又身ニ漆シテ癩ト為
リ、炭ヲ吞テ啞ト為リ、行テ市ニ乞フ、其友之ニ謂テ曰、子
ノ才ヲ以テ趙孟ニ臣トシ事ヘハ、必ス近幸ヲ得ン、子乃
チ為サント欲スル所ヲ為サハ、顧テ易カラスヤ、讓曰、既
ニ質ヲ委シテ臣ト為リ、又之ヲ弑サントヲ求メハ、是レ
ニ心ナリ、吾カ此ヲ為ス所以ハ、天下後世ノ人臣ト為リ
テニ心ヲ懷ク者ヲ愧カシメント欲スルナリト、後チ橋
下ニ伏ス、襄子至リ馬驚ク、之ヲ索メテ豫讓ヲ獲、遂ニ之

ヲ殺ス、○二十八年王崩ス、

○考王 名ハ嵬貞定王ノ少子ナリ、貞定王崩レテ長
子去疾位ヲ踐ム、是ヲ哀王ト為ス、哀王立テ三月、弟叔之
ヲ殺シテ自立ス、是ヲ思王ト為ス、思王立テ五月、考王攻
テ之ヲ殺シテ自立ス、在位十五年、

國號 爵姓 氏姓

蔡 侯 姬 姓 世 二 十

曹 同 同 世 六 十

宋 公 子 姓 世 二 十 三

春秋十二諸侯略表

蔡仲ノ封セラハ、所ナリ、周公蔡叔ヲ郭鄰ニ放ツ、其子胡名仲ノ徳ニ率ヒ行ヲ改メ、復タ蔡ニ封セラル、後世春秋ノ末ニ至テ楚ノ惠王ノ為ニ滅サ

武王ノ弟曹叔振鐸ノ封セラハ、所ナリ、其後世春秋ノ中ユロニ至テ、宋ノ為ニ滅サル

商ノ弟微子啓ノ封セラハ、所ナリ、後世春秋ニ至テ、襄公慈父ナル者アリ、諸侯ニ覇タラント欲シ、遂ニ楚ノ為ニ敗ラル、數世ヲ歴テ康王偃

觀王ノ時、齊楚魏ノ為ニ滅サル

周ノ子伯禽ノ封セラハ、所ナリ、十三世ニシテ、隱公ニ至ル、春秋ノ始メト為ス、隱公ノ弟ヲ桓

魯

衛 同 同

鄭 伯 同

世 三 十 四

公ト曰フ、桓公ノ子ヲ莊公ト曰フ、莊公庶弟三人アリ、長ヲ慶父ト曰フ、其後ヲ孟孫氏ト為ス、次ハ叔牙、其後ヲ叔孫氏ト為ス、次ハ季友、其後ヲ季孫氏ト為ス、是三桓ト謂フ、世々國命ヲ執ル、子班

閔、僖、文、宣、成、襄ノ七公ヲ歴テ、昭公ニ至リ、季氏ヲ伐ツ、三家及テ公ヲ伐チ、公出奔シテ卒ス、弟定公立チ、孔子ヲ以テ中都ノ宰ト為ス、定公卒シテ哀公立ツ、越ヲ以テ三桓ヲ伐ント欲ス、克タス、繆公ニ至リ、子思ヲ尊フ、知テ用キス、平公ニ至リ、孟子ヲ見ント欲シテ果サス、頃公ニ至テ楚ノ考烈王ノ為ニ滅サル

武王ノ母弟康叔封ノ封ヒラル、所ナリ、周ノ諸侯、惟衛ノ最モ後ニ亡フ、秦ノ天下ヲ并スニ及テ、二世始テ君角ヲ廢シテ、族人ト為ス、

周ノ宣王ノ庶弟桓公友ノ封セラハ、所ナリ、君乙ニ至テ、周ノ威烈王ノ時、韓ノ哀公ノ為ニ滅サ

諸侯表

歴代史記

晉		齊	
侯	爵	同	同
姬	姓	姜	姓
三	十	三	十
成王ノ弟唐叔虞ノ封セラレ、所ナリ、後世文公	至テ諸侯ニ覇タリ、襄公靈公成公景公厲公ヲ	太公望呂昌ノ封セラレ、所ナリ、後世桓公ニ至	テ諸侯ニ覇タリ、管仲ヲ用井テ諸侯ヲ九合シ天
歴テ悼公ニ至テ、霸業復ク盛シナリ、又平公昭公	頃公ヲ歴テ公室益ク弱クシテ、六卿ミナ大ナリ、	下ヲ一匡ス、其後八世景公ニ至リ、晏子ヲ以テ相	ト為ス、景公ノ後五世康公ニ至リ、田和侯ニ列シ、
出公ニ至テ四卿ノ為ニ攻ラレ、出奔シテ死ス、幽	公ノ時ニ至リ、晉獨リ絳曲沃ヲ有テ、餘ハミナ韓	康公ヲ海濱ニ遷レテ以テ死セシム、姜氏遂ニ祀	エテ祀ラス、
趙魏氏ニ入ル、号シテ三晋ト為ス、烈公ノ時三卿	ミナ諸侯ニ列ス、又孝公ヲ歴テ静公ニ至リ、三卿		
遂ニ静公ヲ廢シテ家人ト為シ、其地ヲ分ツ、晋絶			

陳		楚		燕	
同	子	侯	伯	侯	伯
媯	姓	芊	姓	姬	姓
二	十	四	十	三	四
虞舜ノ後胡公滿ノ封セラレ、所ナリ、後世春秋	陳後チ楚ノ恵王ノ為ニ滅サル、而シテ完ノ後遂	顓頊ノ裔ナリ、鬻熊ト云フ者周ノ文王ニ事フ、十	一世武王ニ至テ益ク強大、子文王始テ郢ニ都シ、	穆王ヲ歴テ莊王ニ至リ、諸侯ニ覇クテ、後十三世	ス、又數世ヲ歴テ秦ノ為ニ滅サル、
ニ至テ、公子完ト云フ者アリ、出奔シテ齊ニ仕フ	齊ニ大ニシテ田氏ト為ル、	ス、又數世ヲ歴テ秦ノ為ニ滅サル、	リ、六國ニ約シテ從ヲ為ス、子易王曾ニ至テ國大	ニ乱レ、齊ノ為ニ殺サル、子昭王齊ヲ伐テ之ニ克	テ附庸ト為リ、二世ヲ歴テ秦仲ニ至テ始テ大ナ

歴代史記

卷一

諸侯表

二

秦

リ、六世襄公諸侯ニ列シ、十四世穆公ニ至テ西戎ニ覇タリ、三十一世孝公商鞅ヲ用テ國富ミ兵強シ、三十七世ニ至リ天下ヲ并セテ帝ト称ス、是ヲ始皇帝ト為ス、

太古 ○澹泊 澹ト同シ淡ト同シ 各一萬八千歳 一説ニ各當ニ合ニ作ルヘシ後地皇氏亦同

シ 三皇紀 ○八卦 乾坤艮巽震離坎兌 書契 以テ事ヲ約スルナリ 結

網 上古未タ文字アラズ大事ハ則大繩ヲ結ヒ以テ之ヲ紀ス 儼皮 儼ハ對

者鳥獸ノ皮ヲ衣ル故ニ 網罟 罟ハ魚ヲ取ルナリ 儼皮 儼ハ對

捕ルナリ 官ニ紀ス 紀ハ紀ナリ 龍師 龍名ノ女媧氏 伏義ノ

妹ナリ一説ニ女媧ハ古帝王ノ革造 一ニ伏羲ノ制度ニ

聖者男子ニシテ女名ナル者 革造 一ニ伏羲ノ制度ニ

シ 笙簧 簧ハ笙中ノ金葉ナリ笙ヲ吹ケ 共工氏云々 寓言

ナリ天柱折ケ地維缺クトハ大乱ノ甚キヲ云フ五色ノ

石ヲ鍊ルトハ五常ノ理ヲ正クシ化育ヲ輔相シテ天ノ

及ハサル所ヲ補フナリ 紀網 新ニ立ツヲ謂フナリ

○叙文

劉テ○韜土ヲ起ス者今ノ韜揉木ヲ屈ノ来韜ノ柄曲阜

地名徐州不享ト米テ朝享セサルノ國享蚩尤名指南車制古

傳ラス唐ニ至テ其制ヲ定ム車上一説ニ子午盤針ヲ車上

ニ置雲師官名ノ甲子配シテ六十甲子ヲ作ル律呂律

クアリ陽六ヲ律ト為シ陰六ヲ呂ト為ス竹五帝紀○巳

姓○摯○顓頊○九黎黎氏九人諸侯巫史神ニ事南正重云

々南正北正ハ官名重黎ハ人名天ヲ司ルハ曆ヲ治メ時

ノシテ之ヲ聯属スルナリ地ヲ司ルハ地ヲ度リ民ヲ居ク

ル十帝響○爰○毫○伊祁○日ノ如シスルカ如シ照臨雲

ノ如シ雲ノ覆瀝ス時ヲ授ク事早晚ノ閑ル所ヲ謂フ

人ハ愷ナリハ和ハ元ハ善驩兜云々崇山ハ南裔ノ山幽

ハ東裔ノ山三危ハ西裔ノ地故トハ之ヲ遣テ遠ク去ル

通クトヲ得サラシメ流トハ之ヲ拘囚困苦ス竄ハ之ヲ

流ルカ如クナラシム極ハ之ヲ拘囚困苦ス竄ハ之ヲ

駟逐禁錮スルナリ驩兜共工ハ比周シテ相黨シ鯀ハ命

險ヲ恃テ乱ヲ為ス者時ニ之ヲ四凶ト謂フ司空掌ル

后稷田正ノ官ナリ稷ハ稼穡種ルニ稼ト曰フ契○司徒

ノ官五教リ朋友信テリ君臣義アリ夫婦別アリ長幼序

スナ九州莫克青徐荆揚豫梁雍ト曰フ十二州冀州ヲ分

分チテ管州ト為ス肇ム始ナ姚姓○瞽瞍○苦窳○若八鹿

ハ病ナリ民ミナ務テ厚正ノ器ヲ為
リ薄惡嘔斜ニセサルヲ言フナリ

群衆スル所小ヲ邑ト曰ヒ大ヲ都ト曰フ聚ヲ成シ邑ヲ
成シ都ヲ成ストハ民舜ニ歸スルノ漸ク多キヲ言フナ

リ不肖父ニ如カサルヲ云 南風ノ詩 萬物ヲ養ニシテ
ニ能ク民ノ愠悶ヲ解キ能ク民 明ヲ陟セ云々 明ハ勤メ

ノ財ヲ豊阜ニス阜ハ厚ナリ 夏紀 ○奴姓 ○櫛板ノ如シテ以テ泥上ニ擲
者幽ハ情テ功

ナキ者ヲ云 夏紀 ○奴姓 ○櫛板ノ如シテ以テ泥上ニ擲
チ行擗或ハ構ニ作ルハ非ナリ鍊ヲ以テ之ヲ為リ其形

ク者擗ニ似タリ長サ半寸之ヲ履下ニ施シ以テ山ニ
上ルニ礙セト塗山國ノ名揚 玉帛 諸侯ハ玉ヲ執リ附庸寡

サハ爾ナリ 塗山國ノ名揚 玉帛 諸侯ハ玉ヲ執リ附庸寡
人國君自ラ稱シテ寡人ト曰フ猶 巡狩 天子諸侯ノ國ニ

有扈氏 ○五行云々 五行ハ即チ五典ノ行親義別序信威
是ナリ三正ハ天地人ノ正道ナリ

侮威ハ之ヲ暴珍シ侮ハ怠棄 正道ヲ乱廢 盤游 盤ハ樂
外ナリ 昇 ○沈酒 酒ニ溺ル 寒泥 ○原獸ニ淫ス 原野ニ淫放

澆 ○豷 ○室 澆ハ善ヲ毀リ能ヲ害スルナリ
澆 ○豷 ○室 澆ハ善ヲ毀リ能ヲ害スルナリ

緒 后ノ有仍 ○綸 一成 方十里我方一旅 五百 靡遺 臣杼
名 有仍 ○綸 一成 方十里我方一旅 五百 靡遺 臣杼

○泄 ○肩 ○廔 ○武傷 武カヲ以テ傷 鹵 ○索 二ス 索ハ繩
末喜 名 牛飲 牛ノ水ヲ飲ムカ如シ 聘 幣帛ヲ以テ賢者

云 夏臺 名 太史令 天時星曆 商紀 ○崇 高ナリ 女謁 婦女
謁 苞苴 饋遺ナリ襄ムヲ苞ト 桐宮 湯ノ葬 雍 己 ○祥 あり

怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍
怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍

祥ハ妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍
怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍

怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍
怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍

怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍
怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍

怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍
怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍

怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍
怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍

怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍
怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍

怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍
怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍

怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍
怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍

怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍
怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍

怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍
怪ナリ 妖 桑穀 二物共ニ生スルナリ 穀ハ楮ナ 拱 兩手ノ圍

ト云カク名地取同古公亶父コウカクタンホ○傳說フツエツ○帝テ齊セハ賜カクナリ帝齊セ良弼リョヒ

弼ヒハ輔ホ旁ホウクク通トウナナ肖シヨウ似ニナナ鬼方クイホウナナ胡コ擾ニョウルル乱ランナナ偶人オウジン以テテテ人ジン

ラ作サリリクク博ハクシシ局キウ戲キリリ倭辱ヤハラクシシ亦モ辱ニナナリリ震死シンシ以テテテ非命ヒメイナナルルヲヲ

スス荆蠻シヨウマン荆シヨウハ楚ソノ舊号コウゴウ孤竹コシヨク地名チヨウ幽州ユウシュウ大顛ダイテン○閔天ミンテン○散宜サンイ

生セイ○妲己ダキ名女メノ鹿臺ロクタイ名臺ダイ鉅橋キョウキョウ倉ノ名クラノナ一說イツセツニ鉅鹿水キョウロクスイ沙丘シャキウ

離宮別館リキウベツカンノ裸ハダカ赤舄セキシキ長夜チヨウヤノ飲イン夜ヤ已ニ明メイニ至シリリ尚シヨウホホ戸コヲヲ

云クニ炮烙ハウラクハ炮ハ炙シ烙ラクナリリ姜里キヤウリ名城シヨウ三公サンコウ太師タイシ太保タイボウ手格テウカク格カクハ擊キ熊クマ

踏豹胎トウヒョウタイ掌テウナリリ虞芮ヨウライ二國ニクニ祗チニニ○彫テウナリリ豨シ熊クマニ似ニテテ渭水ウェイスイ

ノ陽キョウ北キョクヲヲ云クニ觀カンスス兵威ヘイキヲヲ示シ太師少師タイシシヨウシ並ナラニ樂ラクヲヲ悛ケンメメススハ

改カイナナ周紀シュウキ○屹キツ卓タク立リツ種樹シュウジュ樹ジュハ猶ユウホホ相シヨウ視シナナ商容シヨウヨウ商シヨウノ賢ケン閔ミン

里リ鎬コウ名地ナメチ兵ヘイ不フトトヲヲ謂イフフフナリリ殺コロス以テ暴ボウ云クニ武王ブキョウノ暴君ボウクニヲヲ以テ

ヘテヘテ知チララスス其ソノ神農シノノウ云クニ々々神農シノノウ虞夏ヨウカ已ニ没モツシシテテ禪讓シヤンニョウノ道ダウ忽コト

非ヒヲヲ知チララスス我ガ安ヤス子嗟シヤ云クニ々々今日コノヒ餓死ガシススルルモモ亦モ是コト運命ウンメイノ

クニクニ力リキ通トウ歸キセセンン黍シ俗ソクニニ之ノヲヲ糲リョウ麥秀マクシュウ云クニ々々漸シヤン々々ハ秀シュウツツ

ナナ墟コ故城コトシヨ禾コ五穀ゴコクノノ黍シ粟リョウトト謂イフフフ糲リョウ麥秀マクシュウ云クニ々々漸シヤン々々ハ秀シュウツツ

盛セイナルナル指サシスス校童コウドウ襁褓シヤウバウ小兒コエヲヲ哺ホ食シノノ口コニニ交趾カウチ本ホントト南粵ナングエツノノ贄ニ

ハ紂シウヲヲ執シツリリ以テテテ相見シヨウケン黃耆ワウキ老人ロウジンノノ髮ヘ白ハクククシシテテ復フク夕シヨク黃ワウニニ淫イン

雨ウ大雨オウウ軒車ケンシャ蔽セアルアル者モノ九鼎クウテイ夏后氏カウコウシノノ傳デンルル所トコロ後宅コウタクルル居イナナ

郊カウ廓コクノノ地チ珪ケイ瑞玉ズイヨクヲヲ珪ケイトト曰イフフフ上ウヘ圓エンニニシシテテ劍ケン○太保タイボウ官名カンナメ

ルニ徳義ヲセキ
以テスル者
頭○棠樹
ナリ刑措
道徳隆盛ニシテ民
膠舟

膠ハ皮ヲ煮
液ナリ散
伯冏○祭公謀父
祭ハ國ノ名
荒服
畿

ヲ去ル
荒トハ荒
怒常ナキヲ謂フ
大司寇
刑法ノ
大辟

死罪
荒亡
獸ニ從ヒ
厭クナキヲ荒ト曰ヒ
共王ヨリ衰
○

翳危○懿○難○燮○芮良夫○衛ノ巫云々
巫者ノ神靈
ヲ以テ謗毀

スル者アレハ必
彘
晉ノ召公
名公夷
周公ノ後
且共和ニ

協和シテ共和ト云ル
十四年
宮涅○西周
鎬京ヲ謂

ニ在
三川
涇渭洛ヲ云地
震フ故
伊洛ノ水
褒姒○烽火
火

ヲ烽ト曰フ
急アレハ則高處ニ
周ノ賂
賂ハ室
豐鎬
西都
謂

太子洩○卿士
ハ事ナリ卿士
統公ノ名
昇與子
縹

葛地
祝聃
名帶鈞
條環ナリ
華帶ノ者
仲父
尊稱スルナ

九合
左傳ニ糾合ニ作
一匡
匡ハ正ナリ
周室ヲ尊ヒ夷

所以闕○宰孔
ハ太宰孔
詐祭肉
下拜
堂ヲ下リテ賜モ

天威云々
違ハ遠ナリ
顔ハ眉目ノ
女徳云々
徳トハ婦

ヲ謂フ
九ツ婦女ハ之ヲ近ツク
レハ則止足
驪姫
伐テ得

所隗氏○珪鬯
ハ瑞節鬯
王ノ葬礼地ヲ闕テ道
陽樊

温原攢茅
並ニ蹇叔
名殺
滑
王官
由余
名殉死
葬ニ

ト云
黃鳥ノ詩
秦風
頌王ヨリ悼
○狐偃○趙衰○顛頡○

魏犇 ○趙盾 ○鈕麂 ○其右車右 提彌明 ○獒猛犬 吠ス

校ナリ 搏ナリ 擊ナリ 駟多キ者 靈輒 ○介士甲士 太史記注

瑜 ○陸渾地名 鼎周ノ天下ヲ秦ハント 屠岸賈屠岸

ハ姓 賈 司寇刑法ノ官 公孫杵臼 ○程嬰 ○諺テ詐ナ 六代ノ樂

黃帝ノ雲門堯ノ大章舜ノ韶禹ノ大夏湯ノ大濩武ノ大武 上國中國ナリ 吳諸夏徐

名 國ノ公孫橋 ○都鄙云々國都ト邊鄙ト車 上下云々公卿

服相踰 封洫ハ溝ナリ 廬井云々廬ハ舎ナリ 九夫ヲ井ト

輿人ナリ 取我衣冠云々褚ハ畜ナリ 奢侈ノ者良賈 賈古賈

人ナリ 聃 ○守歲ノ吏帝歲ヲ出納ス 遺愛子産愛セラル

敬王 ○丐古太 隨國ノ 夾谷地名 大司寇刑法ヲ 司馬軍事ヲ

萊人萊夷ノ人 歷階階ヲ登ルニ足 鄆魯ノ 鄆魯ノ 龜陰地名 豚肩云

豚ノ兩肩ヲ并セテ豆ヲ掩フニ足ラズ 一狐裘狐裘ハ

服三十年トハ服ス 攜李地名 闔廬 ○而子汝ナ 夫椒地名 太宰

詔太宰ハ官 生聚民ヲ生シ財ヲ聚メ富シ 唐虞堯典 秦穆

秦 絃歌彈スルヲ 絃ト曰 易周易 彖象云々並ニ孔子序

韋編韋ハ皮ナリ 絶ト曰 易周易 彖象云々並ニ孔子序

游夏子游子夏 孔門ノ高鷲 ○熒惑ナリ 心宿 野宗

豫州ノ域心宿司星 官相ニ移ス災ヲ移シテ相ニ 民ニ

此ニ當ルナリ司星 官相ニ移ス災ヲ移シテ相ニ 民ニ

移ス 意上ニ 歳ニ移ス 歳ヲシテ凶荒ナ 元王ヨリ考 〇属

鏤ノ 范蠡 〇鵠夷子皮 鵠夷ハ酒器ノ名史記ノ注ニ云

以テス今蠶自ラ罪アル 間道 行クテテ 喟然ノ嘆息 巨萬

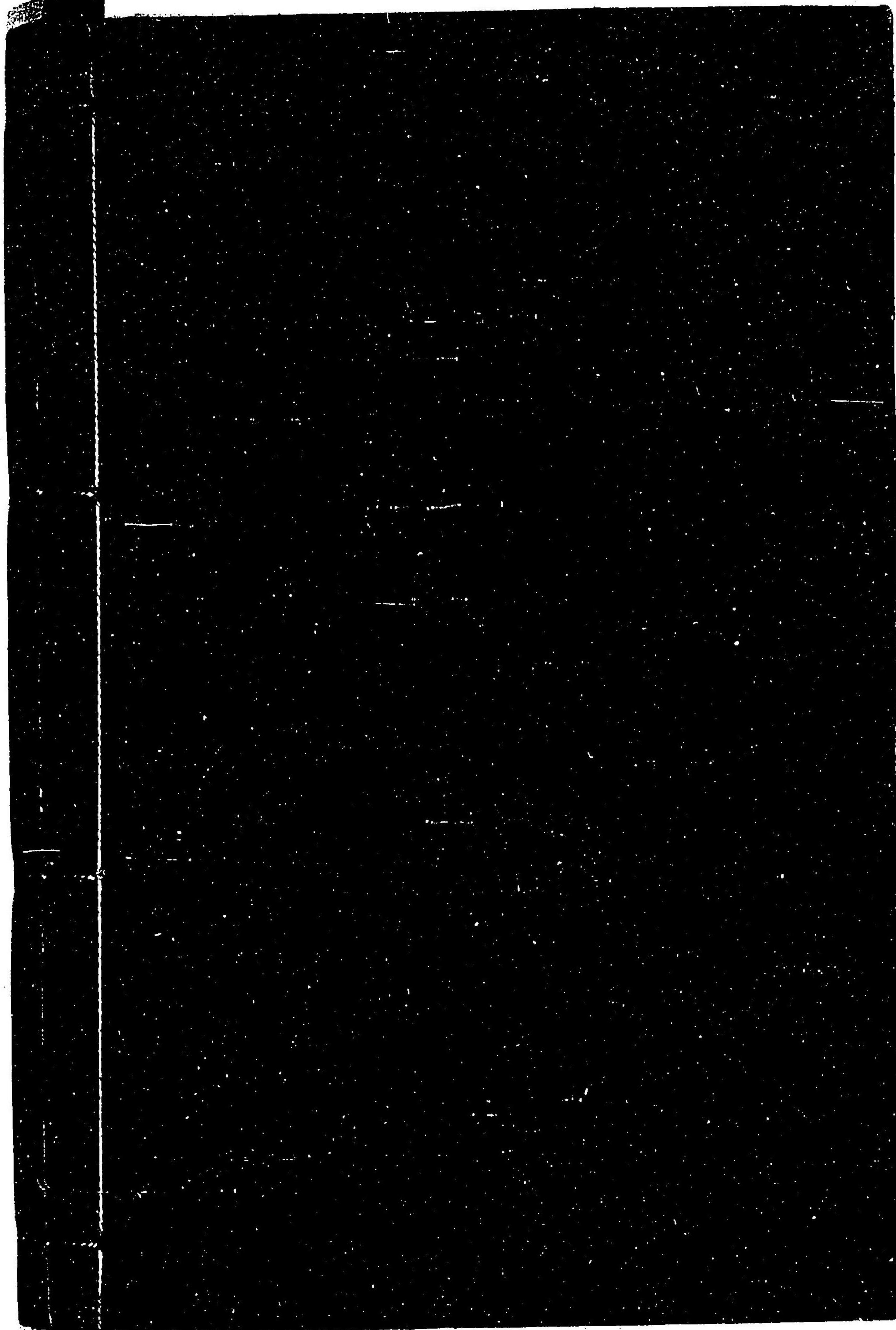
ノ以テ号ト為スナリ 萬々ト言フ 尹鐸 〇繭絲云々 繭絲ハ民ノ膏澤ヲ浚ヒ繭

カコトシ 繭ヲ抽テ盡キサレハ止 マサルカ如キヲ謂フ保障ハ民ノ生ヲ厚クシ保ヲ策

キテ自ラ障ヘ愈々培ヘハ則愈々厚キカ如キヲ謂フ三 版 高サ二尺ヲ一版ト曰 沈竈 〇酒器 後世ノ所謂匕首短

ナリ其頭七ニ類ス 癩ナリ質ヲ委ス 委ハ置ナリ質ハ贅 故ニヒトト曰フ 同シ所謂質ヲ傳

ヘテ臣ト 為ルナリ



特31

696

003439-001-3

特31-696

歴史攬要

原田 由己/編

M10-11

ACC-2103

